(様式第10)

厚生労働大臣 殿

令和 5年 10月 5日
開設者名 学校法人 日本大学
理事長 東郷 真理子

日本大学医学部附属板橋病院の業務に関する報告について

標記について、医療法(昭和23年法律第205号)第12条の3第1項及び医療法施行規則(昭和23年厚生省令第50号)第9条の2の2の第1項の規定に基づき、令和4年度の業務に関して報告します。

1 開設者の住所及び氏名

住所	〒102-8275 東京都千代田区九段南四丁目8番24号(日本大学本部)
氏名	学校法人 日本大学 理事長 東郷真理子

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名称

日本大学医学部附属板橋病院

3 所在の場所

〒173-8610 東京都板橋区大谷口上町30番1号
電話(03)3972-8111

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

☐	1 医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、有すべき診療科名すべてを標榜
☐	2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注) 上記のいずれかを選択し○を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1) 内科

内科							有
内科と組み合わせた診療科名等							
☐	1呼吸器内科		2消化器内科	☐	3循環器内科		4腎臓内科
	5神経内科	☐	6血液内科		7内分泌内科		8代謝内科
	9感染症内科		10アレルギー疾患内科またはアレルギー科		☐		11リウマチ科
診療実績							

(注) 1 「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。
2 「診療実績」欄については、「内科と組み合わせた診療科名等」欄において、標榜していない診療科がある場合、その診療科で提供される医療を、他の診療科で提供している旨を記載すること。

(2) 外科

外科				有			
外科と組み合わせた診療科名							
○	1呼吸器外科	○	2消化器外科		3乳腺外科		4心臓外科
	5血管外科	○	6心臓血管外科		7内分泌外科	○	8小児外科
診療実績							

- (注) 1 「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。
 2 「診療実績」欄については、「外科」「呼吸器外科」「消化器外科」「乳腺外科」「心臓外科」「血管外科」「心臓血管外科」「内分泌外科」「小児外科」のうち、標榜していない科がある場合は、他の標榜科での当該医療の提供実績を記載すること(「心臓血管外科」を標榜している場合は、「心臓外科」「血管外科」の両方の診療を提供しているとして差し支えないこと)。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

○	1精神科	○	2小児科	○	3整形外科	○	4脳神経外科
○	5皮膚科	○	6泌尿器科	○	7産婦人科		8産科
	9婦人科	○	10眼科	○	11耳鼻咽喉科		12放射線科
○	13放射線診断科	○	14放射線治療科	○	15麻酔科	○	16救急科

- (注) 標榜している診療科名に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科				有			
歯科と組み合わせた診療科名							
	1小児歯科		2矯正歯科	○	3歯科口腔外科		
歯科の診療体制							
歯科口腔外科として届出を行い、医療を提供している。							

- (注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。
 2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1	腎臓・高血圧内科	2	糖尿病・代謝内科	3	消化器・肝臓内科	4	腫瘍内科	5	脳神経内科
6	心療内科	7	新生児内科	8	乳腺内分泌外科	9	形成外科	10	リハビリテーション科
11	頭頸部外科	12	疼痛緩和外科	13	臨床検査科	14	病理診断科	15	
16		17		18		19		20	
21		22		23		24		25	

- (注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
43	0	0	0	947	990

(単位:床)

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職種	常勤	非常勤	合計	職種	員数	職種	員数
医師	433	48.8	481.8	看護補助者	98	診療エックス線技師	0
歯科医師	12	3.9	15.9	理学療法士	22	臨床検査技師	89
薬剤師	78	1.2	79.2	作業療法士	4	衛生検査技師	0
保健師	66	1.8	67.8	視能訓練士	12	その他	0
助産師	62	0	62	義肢装具士	0	あん摩マッサージ指圧師	0
看護師	871	9.8	880.8	臨床工学士	33	医療社会事業従事者	7
准看護師	1	0	1	栄養士	2	その他の技術員	43
歯科衛生士	4	0	4	歯科技工士	0	事務職員	81
管理栄養士	12	0	12	診療放射線技師	72	その他の職員	11

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

専門医名	人数(人)	専門医名	人数(人)
総合内科専門医	60	眼科専門医	12
外科専門医	44	耳鼻咽喉科専門医	11
精神科専門医	18	放射線科専門医	8
小児科専門医	32	脳神経外科専門医	15
皮膚科専門医	11	整形外科専門医	17
泌尿器科専門医	6	麻酔科専門医	38
産婦人科専門医	21	救急科専門医	9
		合計	302

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
 2 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

管理者名 (高橋 悟) 任命年月日 令和 5 年 4 月 1 日

病院長: 令和3年4月1日～令和5年3月31日
 副病院長(病院パフォーマンス担当): 令和2年11月1日～令和3年3月31日
 副病院長(診療・教育担当): 平成26年11月1日～平成31年3月31日

9 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	587.3 人	3.4 人	590.7 人
1日当たり平均外来患者数	1,772.3 人	52.4 人	1,824.7 人
1日当たり平均調剤数	外来 35.6 剤 外来 975 剤		
必要医師数	162.0275		人
必要歯科医師数	7		人
必要薬剤師数	20		人
必要(准)看護師数	357		人

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。
 2 入院患者数は、前年度の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
 3 外来患者数は、前年度の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
 4 調剤数は、前年度の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。
 5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要(准)看護師数については、医療法施行規則第二十二條

10 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設備概要			
			病床数	53 床	心電計	有
集中治療室	1041.78 m ²	鉄筋コンクリート造	人工呼吸装置	有	心細動除去装置	有
無菌病室等	[固定式の場合]	床面積	94.11 m ²	病床数	5 床	
	[移動式の場合]	台数	14 台			
医薬品情報管理室	[専用室の場合]	床面積	m ²			
	[共用室の場合]	共用する室名	薬品管理室			
化学検査室	407.37 m ²	鉄筋コンクリート造	(主な設備)	生化学自動分析機 LABOSPECT008 α, H7180, 迅速マルチ自動分析 DimensionEXL2000		
細菌検査室	105.98 m ²	鉄筋コンクリート造	(主な設備)	自動細菌同定感受性装置 ライサスS4, 自動血液培養装置 BACTEC-FX, BDマックスリアルタイムRT-PCR, サーマフィッシャー-Q55DX		
病理検査室	146.24 m ²	鉄筋コンクリート造	(主な設備)	自動固定包装装置, 自動染色装置, クリオスタット, パーチャルスライド機, 安全キャビネット, 顕微鏡		
病理解剖室	82.73 m ²	鉄筋コンクリート造	(主な設備)	解剖台3台, (L型昇降式1第含), 局所排気システム, 写真撮影装置		
研究室	27.28 m ²	鉄筋コンクリート造	(主な設備)	パソコン, 顕微鏡, 電子カルテ		
講義室	203.32 m ²	鉄筋コンクリート造	室数	4 室	収容定員	125 人
図書室	1015.1 m ²	鉄筋コンクリート造	室数	1 室	蔵書数	約209000 冊程度

- (注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。
 2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

11 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

紹介率	87.6	%	逆紹介率	60.7	%
算出 根拠	A: 紹介患者の数		24,620	人	
	B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数		20,296	人	
	C: 救急用自動車によって搬入された患者の数		4,673	人	
	D: 初診の患者の数		33,433	人	

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
 2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
 3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

12 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由(注)

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害 関係	委員の要件 該当状況
寺崎 仁	元東京女子医科大学医 療安全科教授 医師	○	大学教授として医療安 全に関する豊富な実務 経験と識見を持ち合わ せているため	無	1
各務 武希	光和総合法律事務所 弁護士		法曹界での豊富な実績 を有しており、法律に関 する専門知識とコンプラ イアンス分野の識見を 持ち合わせているため	無	1
佐伯 晴子	一般社団法人イン フォームド・コンセント理 事長		医療を受ける者の視点 から医学教育や患者に 寄り添う医療づくりに関 する豊富な活動実績を 有しているため	無	2
西成田 進	元板橋病院医療安全管 理室兼任医師		総合病院病院長と本病 院医療安全管理室兼任 医師の業務経験を持ち 合わせているため	有	3
庄司 義男	元関東信越厚生局医療 課長		豊富な業務経験を踏ま えた、医療に係る安全 管理に関する識見を持 ち合わせているため	有	3

- (注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1~3のいずれかを記載すること。
 1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
 2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者(1.に掲げる者を除く。)
 3. その他

13 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況

委員名簿の公表の有無	有
委員の選定理由の公表の有無	有
公表の方法	
日本大学医学部附属板橋病院のホームページ上に公表している。 (https://www.itabashi.med.nihon-u.ac.jp/outline/disclosure)	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	移植後長期フォローアップ外来	取扱患者数	25
当該医療技術の概要 移植後には、感染症やGVHDだけでなく、時間が経ってから身体の様々な臓器から発症する「晩期合併症」が起こることがある。これらの予防や、早い段階で適切な治療やケアと行うために、移植が終わった後も、定期的に検査や診察、生活指導などを受けていただくこと。			
医療技術名	術中神経モニタリング支援下、脳腫瘍摘出術	取扱患者数	30
当該医療技術の概要 脳の機能を温存しつつ摘出率を上げるために、術中神経モニタリングを行いながら最大限の腫瘍摘出を行う。			
医療技術名	5-Amino Levulinic Acid (5-ALA) による術中蛍光診断支援下、摘出術	取扱患者数	3
当該医療技術の概要 悪性神経膠腫の摘出率を上げるために、腫瘍細胞に取り込まれる5-ALAを内服した状態で手術を行い、術中に蛍光法で腫瘍の位置を同定し、腫瘍を摘出する。			
医療技術名	MRIを基にした術中画像ナビゲーションシステム	取扱患者数	50
当該医療技術の概要 術中に、病変の解剖学的位置を同定することで、合併症を軽減しつつ、病変へのアプローチを容易にする。また最大限の腫瘍摘出を目指す目的で行う。必要な症例ではDTI(神経線維の可視化)を併用して安全な手術を目指す。			
医療技術名	carmustine脳内留置用剤	取扱患者数	3
当該医療技術の概要 悪性神経膠腫に対して、可及的に腫瘍を摘出した後に、摘出空にCarmustine(ACNU)を留置することで、抗腫瘍効果を期待し、予後の改善をめざす。			
医療技術名	bevacizumab(アバスチン)の静脈内投与	取扱患者数	3
当該医療技術の概要 bevacizumabは血管内皮細胞増殖因子vascular endothelial growth factor (VEGF) に対するモノクローナル抗体で、VEGFの働きを阻害することにより、血管新生を抑えたり腫瘍の増殖や転移を抑えたりする作用を持つ分子標的治療薬である。悪性神経膠腫の再発例に対して、外来にてbevacizumabによる化学療法を行い、抗腫瘍効果を期待し、予後の改善をめざす。			
医療技術名	交流電場腫瘍治療システムであるNovoTTF-100Aシステム	取扱患者数	2
当該医療技術の概要 初発の悪性神経膠腫に対して、腫瘍治療電場Tumor Treating Fields (TTF) と呼ばれる低強度・中間周波数の交流電場を発生させる携帯可能な装置で交流電場が有糸分裂中期の核分裂停止を誘発し、がん細胞を死滅させることで予後の改善をめざす。			
医療技術名	パーキンソン病に対する脳深部刺激療法	取扱患者数	10
当該医療技術の概要 パーキンソン病に対する運動症状改善のため定位脳手術の手法により脳深部刺激電極を挿入し、完全埋設型刺激装置を植え込み慢性電気刺激を行う。			
医療技術名	急性期脳梗塞に対する経皮的血栓回収療法	取扱患者数	25
当該医療技術の概要 脳主幹動脈閉塞による急性期脳梗塞に対して、再開通を目的とし24時間体制で施行している。			
医療技術名	体幹部および頭部定位照射	取扱患者数	32
当該医療技術の概要 肺腫瘍、肝細胞癌および脳腫瘍に対して行うピンポイントの根治的放射線治療。			

医療技術名	強度変調放射線治療	取扱患者数	146
当該医療技術の概要			
前立腺癌, 子宮頸癌, 肺癌, 頭頸部癌などにおいて局所制御の向上と有害事象軽減目的のための放射線治療。			
医療技術名	高線量率密封小線源療法	取扱患者数	18
当該医療技術の概要			
子宮頸癌を主体に行う放射線治療。			
医療技術名	全身照射	取扱患者数	10
当該医療技術の概要			
造血幹細胞移植においてレシピエントが造血幹細胞を拒絶しないように十分な免疫抑制をかける放射線による前処置。			
医療技術名	低線量率密封小線源治療	取扱患者数	12
当該医療技術の概要			
限局性前立腺癌に対して1251(ヨード)線源を腰椎麻酔下に会陰から永久的に前立腺内に埋め込む治療。			
医療技術名	植込み型補助人工心臓	取扱患者数	4
当該医療技術の概要			
植込み型補助人工心臓(非拍動流型)は、心臓移植適応の重症心不全患者で、薬物療法や体外式補助人工心臓等の他の補助循環法によっても継続した代償不全に陥っており、かつ、心臓移植以外には救命が困難と考えられる症例に対し、心臓移植までの循環改善を目的として行われている。			
医療技術名	血管再生療法	取扱患者数	1
当該医療技術の概要			
皮下脂肪細胞から取り出した脱分極細胞を培養し、高濃度の脱分極細胞を虚血肢に筋注する。			
医療技術名	がん遺伝子プロファイリング検査	取扱患者数	3
当該医療技術の概要			
固形がんを解析対象とした腫瘍組織の包括的ながんゲノムプロファイルを取得することで、患者さんのがん固有の遺伝子変異を解析し、正確な診断や抗がん剤の選定など治療方針決定に有用な情報を提供する。			
医療技術名	新生児仮死に対する低体温療法	取扱患者数	9
当該医療技術の概要			
重症新生児仮死に対し、水の還流するマットにより低体温にする療法で、生後6時間以内に開始し、72時間施行する			
医療技術名	先天性サイトメガロウイルス感染症に対する抗ウイルス薬治療	取扱患者数	1
当該医療技術の概要			
頭蓋内病変、網膜脈絡膜炎、難聴など症候性の先天性サイトメガロウイルス感染症に対して6か月間バルガンシクロビルを内服する治療			
医療技術名	新生児遷延性肺高血圧症に対する一酸化窒素吸入治療	取扱患者数	5
当該医療技術の概要			
新生児遷延性肺高血圧症の児に対し、人工呼吸管理のもと高濃度酸素と一酸化窒素を用いて換気することで肺血管抵抗を下げる治療			
医療技術名	脊髄筋萎縮症に対するヌシネルセン髄腔内投与	取扱患者数	1
当該医療技術の概要			
脊髄筋萎縮症に対し、運動機能の安定化および改善目的に、ヌシネルセンを髄腔内投与する。初回後、2週、4週、9週、以降4か月間隔で投与する。			

医療技術名	超音波内視鏡下瘻孔形成術	取扱患者数	30
当該医療技術の概要			
超音波内視鏡ガイド下に経消化管的に胆道・膵仮性嚢胞・腹腔内膿瘍を穿刺してドレナージを行う手技			
医療技術名	バルーン内視鏡を用いたERCP	取扱患者数	70
当該医療技術の概要			
消化管再建術後の胆膵疾患(閉塞性黄疸、胆管炎、胆管結石、胆管・膵管空腸吻合部狭窄など)に対するバルーン内視鏡を用いた治療			
医療技術名	バルーン閉塞下逆行性経静脈的塞栓術	取扱患者数	8
当該医療技術の概要			
経静脈的にバルーンカテーテルで胃静脈瘤の流出路を閉塞し硬化剤を注入して静脈瘤を血栓化する治療			
医療技術名	内視鏡的粘膜下層剥離術	取扱患者数	120
当該医療技術の概要			
早期の食道癌・胃癌・大腸癌を粘膜下層で剥離して切除する内視鏡手術			
医療技術名	修正型電気けいれん療法	取扱患者数	11
当該医療技術の概要			
手術室において全身麻酔下で筋弛緩を確保した状態で電気けいれん療法を行う。難治性うつ病および統合失調症が対象。			
医療技術名	腹腔鏡下副腎摘除術	取扱患者数	3
当該医療技術の概要			
副腎良性腫瘍(原発性アルドステロン症、クッシング症候群など)に対する低侵襲な術式である。 腹腔鏡下に副腎中心静脈を処理し、腫瘍の取り残しがないよう摘除する必要がある。			
医療技術名	腹腔鏡下副腎髓質腫瘍切除術	取扱患者数	0
当該医療技術の概要			
褐色細胞種など副腎髓質腫瘍に対して腹腔鏡を用いて副腎摘除を行う術式である。 周術期の血圧管理が難しい疾患である。			
医療技術名	腹腔鏡下副腎悪性腫瘍手術	取扱患者数	2
当該医療技術の概要			
副腎悪性腫瘍に対して腹腔鏡を用いて副腎摘除を行う低侵襲な術式である。			
医療技術名	腹腔鏡下根治的腎摘除術	取扱患者数	9
当該医療技術の概要			
腎悪性腫瘍(主にT1b以上)に対する低侵襲な術式である。 腹腔鏡下に腎動静脈および尿管を処理し腎周囲脂肪をしっかりと付けて根治的に腎を摘除する必要がある。			
医療技術名	腹腔鏡下腎尿管全摘除術	取扱患者数	13
当該医療技術の概要			
腎盂癌および尿管癌に対する低侵襲な術式である。 腹腔鏡下に腎動静脈を処理し、腎と尿管を骨盤内付近まで遊離する必要がある。			
医療技術名	腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術	取扱患者数	0
当該医療技術の概要			
膀胱癌に対して腹腔鏡を用いて膀胱全摘除を行う出血量が少なく低侵襲な術式である。			

医療技術名	腹腔鏡下仙骨脛固定術	取扱患者数	40
当該医療技術の概要 骨盤臓器脱に対して腹腔鏡を用いて脛断端を仙骨岬角にメッシュを持ちて固定する術式である。 メッシュと組織の縫合箇所が多く、難易度の高い手術である。			
医療技術名	ロボット支援腎悪性腫瘍手術(7cm以下)	取扱患者数	20
当該医療技術の概要 腎悪性腫瘍(主にT1a)に対する低侵襲な術式である。腹腔鏡下に腎動脈をクランプし、腫瘍を切除後、腎を縫合する必要があるが阻血時間が限りがあり、高度の縫合技術を要する。			
医療技術名	ロボット支援腎盂形成手術	取扱患者数	1
当該医療技術の概要 腎盂尿管移行部狭窄症に対してロボットを用い、腎盂尿管の再建を行う術式である。			
医療技術名	ロボット支援前立腺悪性腫瘍手術	取扱患者数	55
当該医療技術の概要 前立腺癌に対するロボットを用いた低侵襲な術式である。剥離・縫合操作が多く、高度の技術を要する。			
医療技術名	ロボット支援膀胱悪性腫瘍手術	取扱患者数	6
当該医療技術の概要 膀胱癌に対してロボットを用いて膀胱全摘除を行う術式で、出血量が少なく低侵襲な手術である。			
医療技術名	毛細血管拡張性運動失調症 (Ataxia telangiectasia)の遺伝子解析(遺伝学)	取扱患者数	2
当該医療技術の概要 毛細血管拡張性運動失調症 (Ataxia telangiectasia)の原因遺伝子ATMを解析した。保険診療が適用されないため、高度の医療として行った。			
医療技術名	がんゲノム医療で検出されたSMAD4遺伝子の生殖細胞系列バリエント検索	取扱患者数	1
当該医療技術の概要 がんゲノム医療において遺伝性腫瘍の原因遺伝子であるSMAD4にバリエントが検出された症例について、遺伝する生殖細胞系列バリエントであるかどうかの解析を行った。			
医療技術名	多発性内分泌腫瘍症候群 (MEN2-RET)の遺伝子解析	取扱患者数	1
当該医療技術の概要 がんゲノム医療において多発性内分泌腫瘍症候群の原因遺伝子であるRETにおける生殖細胞系列のバリエントの解析を行った。			
医療技術名	多発性内分泌腫瘍症候群 (MEN1)の遺伝子解析	取扱患者数	1
当該医療技術の概要 がんゲノム医療において多発性内分泌腫瘍症候群の原因遺伝子であるMEN1における生殖細胞系列のバリエントの解析を行った。			
医療技術名	BAP1腫瘍素因症候群における原因遺伝子BAP1の生殖細胞系列バリエントの解析	取扱患者数	3
当該医療技術の概要 BAP1腫瘍素因症候群の原因遺伝子であるBAP1における生殖細胞系列のバリエント解析を行った。			

医療技術名	がんゲノム医療で検出された <i>MUTYH</i> 遺伝子の生殖細胞系列バリエント検索	取扱患者数	2
当該医療技術の概要			
がんゲノム医療において遺伝性腫瘍の原因遺伝子である <i>MUTYH</i> にバリエントが確認された症例またその血縁者について生殖細胞系列のバリエントの解析を行った。			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

その他の高度医療の種類合計数	43
取扱い患者数の合計(人)	791

4 指定難病についての診療

疾患名		患者数		疾患名		患者数
1	球脊髄性筋萎縮症	2	66	先天性副腎低形成症		19
2	筋萎縮性側索硬化症	3	67	アジソン病		1
3	脊髄性筋萎縮症	1	68	サルコイドーシス		28
4	進行性核上性麻痺	2	69	特発性間質性肺炎		11
5	パーキンソン病	278	70	肺動脈性肺高血圧症		6
6	大脳皮質基底核変性症	6	71	慢性血栓塞栓性肺高血圧症		7
7	ハンチントン病	3	72	網膜色素変性症		20
8	シャルコー・マリー・トゥース病	2	73	特発性門脈圧亢進症		10
9	重症筋無力症	60	74	原発性胆汁性胆管炎		62
10	先天性筋無力症候群	4	75	自己免疫性肝炎		24
11	多発性硬化症／視神経脊髄炎	59	76	クローン病		41
12	慢性脱髄性多発神経炎／多巣性運動ニュー	6	77	潰瘍性大腸炎		141
13	封入体筋炎	2	78	好酸球性消化管疾患		1
14	多系統萎縮症	12	79	慢性特発性偽性腸閉塞症		1
15	脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。)	25	80	腸管神経節細胞減少症		3
16	ライソゾーム病	1	81	全身型若年性特発性関節炎		7
17	ミトコンドリア病	4	82	非典型溶血性尿毒症症候群		3
18	もやもや病	15	83	筋ジストロフィー		6
19	プリオン病	3	84	遺伝性周期性四肢麻痺		2
20	亜急性硬化性全脳炎	1	85	脊髄空洞症		2
21	HTLV-1関連脊髄症	2	86	脊髄髄膜瘤		5
22	特発性基底核石灰化症	1	87	アイザックス症候群		1
23	全身性アミロイドーシス	2	88	遺伝性ジストニア		2
24	ペスレムミオパチー	2	89	脳表ヘモジデリン沈着症		1
25	神経線維腫症	5	90	ペリー症候群		1
26	天疱瘡	4	91	前頭側頭葉変性症		6
27	膿疱性乾癬(汎発型)	3	92	先天性無痛無汗症		1
28	スティーヴンス・ジョンソン症候群	2	93	アイカルディ症候群		6
29	高安動脈炎	7	94	レノックス・ガストー症候群		1
30	巨細胞性動脈炎	7	95	結節性硬化症		3
31	結節性多発動脈炎	10	96	家族性良性慢性天疱瘡		1
32	顕微鏡的多発血管炎	33	97	類天疱瘡(後天性表皮水疱症を含む。)		10
33	多発血管炎性肉芽腫症	9	98	特発性後天性全身性無汗症		2
34	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	24	99	マルファン症候群		1
35	悪性関節リウマチ	22	100	ウィルソン病		1
36	パージャール病	4	101	ソトス症候群		1
37	原発性抗リン脂質抗体症候群	3	102	ファロー四徴症		1
38	全身性エリテマトーデス	210	103	一次性ネフローゼ症候群		52
39	皮膚筋炎／多発性筋炎	88	104	紫斑病性腎炎		5
40	全身性強皮症	43	105	間質性膀胱炎(ハンナ型)		3
41	混合性結合組織病	42	106	オスラー病		1
42	シェーグレン症候群	124	107	α 1-アンチトリプシン欠乏症		1
43	成人スチル病	7	108	原発性高カイクロミクロン血症		1
44	再発性多発軟骨炎	3	109	家族性地中海熱		2
45	ベーチェット病	33	110	強直性脊椎炎		6
46	特発性拡張型心筋症	42	111	肋骨異常を伴う先天性側弯症		1
47	肥大型心筋症	10	112	軟骨無形成症		7
48	再生不良性貧血	28	113	リンパ管腫症/ゴーハム病		17
49	自己免疫性溶血性貧血	6	114	巨大リンパ管奇形(頸部顔面病変)		30
50	発作性夜間ヘモグロビン尿症	2	115	遺伝性鉄芽球性貧血		1
51	特発性血小板減少性紫斑病	52	116	総排泄腔遺残		1
52	血栓性血小板減少性紫斑病	1	117	先天性横隔膜ヘルニア		3
53	原発性免疫不全症候群	6	118	胆道閉鎖症		3
54	IgA腎症	39	119	IgG4関連疾患		9
55	多発性嚢胞腎	38	120	レーベル遺伝性視神経症		1
56	黄色靱帯骨化症	8	121	好酸球性副鼻腔炎		17
57	後縦靱帯骨化症	35	122	進行性白質脳症		3
58	広範脊柱管狭窄症	1	123	進行性ミオクローヌスてんかん		13
59	特発性大腿骨頭壊死症	21	124	先天異常症候群		3
60	下垂体性ADH分泌異常症	10	125	特発性多中心性キャッスルマン病		5
61	下垂体性PRL分泌亢進症	6				
62	クッシング病	2				
63	下垂体性成長ホルモン分泌亢進症	12				
64	下垂体前葉機能低下症	24				
65	先天性副腎皮質酵素欠損症	5				

疾患数	125
合計患者数(人)	2,151

(注) 「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
・特定機能病院入院基本料 (一般病棟7:1入院基本料, 精神病棟13:1入院基本料)	・ハイリスク分娩管理加算
・入院時食事療養(I)	・後発医薬品使用体制加算 1
・地域歯科診療支援病院歯科初診料	・病棟薬剤業務実施加算 1・2
・歯科外来診療環境体制加算 2	・データ提出加算 2
・救急医療管理加算	・入退院支援加算 1・3 地域連携診療計画加算 入院時支援加算 総合機能評価加算
・超急性期脳卒中加算	・せん妄ハイリスク患者ケア加算
・診療録管理体制加算 2	・精神疾患診療体制加算
・医師事務作業補助体制加算 2 40:1	・精神科急性期医師配置加算 2のイ
・急性期看護補助体制加算 25:1(看護補助者5割以上) 夜間100:1 急性期看護補助体制加算 夜間看護体制加算 看護補助体制充実加算	・排尿自立支援加算
	・地域医療体制確保加算
・看護職員夜間配置加算 12:1配置加算 1	・救命救急入院料 4 精神疾患診断治療初回加算 早期離床・リハビリテーション加算
・看護補助加算 2 看護補助体制充実加算 (精神病棟)	・特定集中治療室管理料 3 早期離床・リハビリテーション加算 早期栄養介入管理加算
・療養環境加算	・総合周産期特定集中治療室管理料 成育連携支援加算
・重症者等療養環境特別加算	・新生児治療回復室入院医療管理料
・無菌治療室管理加算 1	・小児入院医療管理料 1 無菌治療管理加算 2 養育支援体制加算
・緩和ケア診療加算	・
・精神科身体合併症管理加算	・

・精神科リエゾンチーム加算	・
・摂食障害入院医療管理加算	・
・栄養サポートチーム加算	・
・医療安全対策加算 1	・
・感染対策向上加算 1 指導強化加算	・
・患者サポート体制充実加算	・
・報告書管理体制加算	・
・褥瘡ハイリスク患者ケア加算	・
・ハイリスク妊娠管理加算	・

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
・外来栄養食事指導料の注2に規定する基準	・こころの連携指導料(Ⅱ)
・心臓ペースメーカー指導管理料の注5に掲げる遠隔モニタリング加算	・薬剤管理指導料
・糖尿病合併症管理料	・医療機器安全管理料 1・2
・がん性疼痛緩和指導管理料	・医療機器安全管理料(歯科)
・がん患者指導管理料 イ・ロ・ハ・ニ	・精神科退院時共同指導料2
・外来緩和ケア管理料	・歯科治療時医療管理料
・移植後患者指導管理料(臓器移植後・造血幹細胞移植後)	・在宅酸素療法指導管理料の注2に規定する遠隔モニタリング加算
・糖尿病透析予防指導管理料	・在宅持続陽圧呼吸療法指導管理料の注2に規定する遠隔モニタリング加算
・小児運動器疾患指導管理料	・在宅植込型補助人工心臓(非拍動流型)指導管理料
・乳腺炎重症化予防ケア・指導料	・在宅腫瘍治療電場療法指導管理料
・婦人科特定疾患治療管理料	・在宅経肛門的自己洗腸指導管理料
・腎代替療法指導管理料	・持続血糖測定器加算(間歇注入シリンジポンプと連動する持続血糖測定器を用いる場合)及び皮下連続式グルコース測定
・一般不妊治療管理料	・遺伝学的検査
・生殖補助医療管理料 1	・染色体検査の注2に規定する施設基準
・二次性骨折予防継続管理料 1・3	・骨髄微小残存病変量測定
・下肢創傷処置管理料	・BRCA1/2遺伝子検査

・院内トリアージ実施料	・がんゲノムプロファイリング検査
・外来放射線照射診療料	・先天性代謝異常症検査
・外来腫瘍化学療法診療料 1	・HPV核酸検出及びHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)
・連携充実加算	・ウイルス・細菌核酸多項目同時検出
・ニコチン依存症管理料(情報通信機器を用いた診療体制を有する)	・検体検査管理加算(Ⅰ)・(Ⅳ)
・療養・就労両立支援指導料の注3に掲げる相談支援加算	・国際標準検査管理加算
・がん治療連携計画策定料	・遺伝カウンセリング加算
・外来排尿自立指導料	・遺伝性腫瘍カウンセリング加算
・ハイリスク妊産婦連携指導料 2	・心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算
・肝炎インターフェロン治療計画料	・時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト
・胎児心エコー法	・集団コミュニケーション療法料
・ヘッドアップティルト試験	・歯科口腔リハビリテーション料 2
・終夜睡眠ポリグラフィー(安全精度管理下で行うもの)	・児童思春期精神科専門管理加算
・神経学的検査	・療養生活継続支援加算
・補聴器適合検査	・救急患者精神科継続支援料
・コンタクトレンズ検査料 1	・認知療法・認知行動療法 1
・小児食物アレルギー負荷検査	・精神科ショート・ケア「小規模なもの」
・内服・点滴誘発試験	・精神科デイ・ケア「小規模なもの」
・経気管支凍結生検法	・抗精神病特定薬剤治療指導管理料(治療抵抗性統合失調症治療指導管理料に限る。)
・画像診断管理加算2	・医療保護入院等診療料

・CT撮影及びMRI撮影	・静脈圧迫処置(慢性静脈不全に対するもの)
・冠動脈CT撮影加算	・硬膜外自家血注入
・血流予備量比コンピューター断層撮影	・エタノールの局所注入(甲状腺)
・外傷全身CT加算	・エタノールの局所注入(副甲状腺)
・心臓MRI撮影加算	・人工腎臓(慢性維持透析を行った場合1)
・乳房MRI撮影加算	・導入期加算2及び腎代替療法実績加算
・小児鎮静下MRI撮影加算	・透析液水質確保加算及び慢性維持透析濾過加算
・抗悪性腫瘍剤処方管理加算	・下肢末梢動脈疾患指導管理加算
・外来化学療法加算1	・難治性高コレステロール血症に伴う重度尿蛋白を呈する糖尿病性腎症に対するLDLアフェレシス療法
・無菌製剤処理料	・移植後抗体関連型拒絶反応治療における血漿交換療法
・心大血管疾患リハビリテーション料(I)	・CAD/CAM冠及びCAD/CAMインレー
・脳血管疾患等リハビリテーション料(I)	・歯科技工加算1及び2
・運動器リハビリテーション料(I)	・皮膚移植術(死体)
・呼吸器リハビリテーション料(I)	・自家脂肪注入
・がん患者リハビリテーション料	・組織拡張器による再建手術(乳房(再建手術)の場合に限る。)
・リンパ浮腫複合的治療料	・四肢・躯幹軟部悪性腫瘍手術及び骨悪性腫瘍手術の注に掲げる処理骨再建加算
・骨移植術(軟骨移植術を含む。)(自家培養軟骨移植術に限る。)	・内視鏡下甲状腺部分切除, 腺腫摘出術, 内視鏡下パセドウ甲状腺全摘(亜全摘)術(両葉), 内視鏡下副甲状腺(上皮小体)腺腫過形成手術
・後縦靭帯骨化症手術(前方進入によるもの)	
・椎間板内酵素注入療法	・乳腺腫瘍画像ガイド下吸引術(一連につき)(MRIによるもの)
・腫瘍脊椎骨全摘術	・乳がんセンチネルリンパ節加算1及びセンチネルリンパ節生検(併用)

・脳腫瘍覚醒下マッピング加算	・乳がんセンチネルリンパ節加算2及びセンチネルリンパ節生検(単独)
・内視鏡下脳腫瘍生検術および内視鏡下脳腫瘍摘出術	・乳腺悪性腫瘍手術(乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴わないもの)及び乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴うもの))
・脳刺激装置植込術(頭蓋内電極植込術を含む。)及び脳刺激装置交換術	・ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後)
・脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術	・胸腔鏡下拡大胸腺摘出術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・癒着性脊髄くも膜炎手術(脊髄くも膜剥離操作を行うもの)	・胸腔鏡下縦隔悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・仙骨神経刺激装置植込術及び仙骨神経刺激装置交換術(過活動膀胱)	・胸腔鏡下良性縦隔腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・角結膜悪性腫瘍切除手術	・肺悪性腫瘍手術(壁側・臓側胸膜全切除(横隔膜, 心膜合併切除を伴うもの)に限る。)
・角膜移植術(内皮移植加算)	・胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(区域切除・肺葉切除又は1肺葉を超えるもので内視鏡支援機器を用いる場合)
・羊膜移植術	・胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(気管支形成を伴う肺切除)
・緑内障手術(緑内障治療用インプラント挿入術(プレートのあるもの))	・経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの)
・緑内障手術(流出路再建術(眼内法)及び水晶体再建術(併用眼内ドレーン挿入術))	・胸腔鏡下弁形成術及び胸腔鏡下弁置換術
・緑内障手術(濾過胞再建術(needle 法))	・経皮的僧帽弁クリップ術
・網膜再建術	・不整脈手術 左心耳閉鎖術(胸腔鏡下によるもの)
・経外耳道の内視鏡下鼓室形成術	・経皮的中隔心筋焼灼術
・人工中耳植込術	・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術
・植込型骨導補聴器(直接振動型)植込術、人工内耳植込術、植込型骨導補聴器移植術及び植込型骨導補聴器交換術	・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術(リードレスペースメーカー)
・耳管用補綴材挿入術	・両心室ペースメーカー移植術(経静脈電極の場合)及び両心室ペースメーカー交換術(経静脈電極の場合)
・内視鏡下鼻・副鼻腔手術5型(拡大副鼻腔手術)	・植込型除細動器移植術(経静脈リードを用いるもの又は皮下植込型リードを用いるもの), 植込型除細動器交換術(その他のもの)及び経静脈電極除去術
・鏡視下咽頭悪性腫瘍手術(軟口蓋悪性腫瘍手術を含む。)	
・内喉頭筋内注入術(ボツリヌス毒素によるもの)	・両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術(経静脈電極の場合)及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器

・鏡視下喉頭悪性腫瘍手術	電極ソノログ及び閉塞、シリンジ吸引による低圧吸引補助交換術(経静脈電極の場合)
・喉頭形成手術(甲状軟骨固定用器具を用いたもの)	・大動脈バルーンパンピング法(IABP法)
・経皮的循環補助法(ポンプカテーテルを用いたもの)	・膀胱頸部形成術(膀胱頸部吊上術以外)、埋没陰茎手術及び陰嚢水腫手術(鼠径部切開によるもの)
・補助人工心臓	・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術
・植込型補助人工心臓(非拍動流型)	・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
・経皮的下肢動脈形成術	・腹腔鏡下仙骨腫固定術
・腹腔鏡下リンパ節群郭清術(傍大動脈)・(側方)	・腹腔鏡下腔式子宮全摘術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・腹腔鏡下小切開副腎摘出術, 腹腔鏡下小切開腎部分切除術, 腹腔鏡下小切開腎摘出術, 腹腔鏡下小切開腎(尿管)悪性腫瘍手術, 腹腔鏡下小切開前立腺悪性腫瘍手術	・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに対して内視鏡手術用支援機器を用いる場合) ・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに限る。)
・内視鏡的逆流防止粘膜切除術	・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮頸がんに限る。)
・バルーン閉塞下逆行性経静脈的塞栓術	・腹腔鏡下子宮癒痕部修復術
・腹腔鏡下胆嚢悪性腫瘍手術(胆嚢床切除を伴うもの)	・胎児胸腔・羊水腔シャント術
・胆管悪性腫瘍手術(臍頭十二指腸切除及び肝切除(葉以上)を伴うものに限る。)	・体外式膜型人工肺管理料
・腹腔鏡下肝切除術	・胃瘻造設術(経皮的内視鏡下胃瘻造設術、腹腔鏡下胃瘻造設術を含む。)
・生体部分肝移植術	・医科点数表第2章第10部手術の通則の19に規定する手術(遺伝性乳癌卵巣癌症候群患者に対する乳房切除術に限る。)
・腹腔鏡下臍腫瘍摘出術	・輸血管管理料 I
・腹腔鏡下臍体尾部腫瘍切除術	・輸血適正使用加算
・早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術	・コーディネート体制充実加算
・内視鏡的小腸ポリープ切除術	・自己生体組織接着剤作成術

<ul style="list-style-type: none"> ・腹腔鏡下直腸切除・切断術(切除術、低位前方切除術及び切断術に限る。)(内視鏡手術用支援機器を用いる場合) 	<ul style="list-style-type: none"> ・自己クリオプレシピテート作製術(用手法)・同種クリオプレシピテート作製術
<ul style="list-style-type: none"> ・腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)及び腹腔鏡下尿管悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの) 	<ul style="list-style-type: none"> ・人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算
	<ul style="list-style-type: none"> ・胃瘻造設時嚥下機能評価加算
<ul style="list-style-type: none"> ・腹腔鏡下腎盂形成手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合) 	<ul style="list-style-type: none"> ・広範囲顎骨支持型装置埋入手術
<ul style="list-style-type: none"> ・生体腎移植術 	<ul style="list-style-type: none"> ・麻酔管理料 I・II
<ul style="list-style-type: none"> ・膀胱水圧拡張術及びハンナ型間質性膀胱炎手術(経尿道) 	<ul style="list-style-type: none"> ・周術期薬剤管理加算
<ul style="list-style-type: none"> ・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合) 	<ul style="list-style-type: none"> ・歯科麻酔管理料
<ul style="list-style-type: none"> ・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術 	<ul style="list-style-type: none"> ・放射線治療専任加算
<ul style="list-style-type: none"> ・人工尿道括約筋植込・置換術 	<ul style="list-style-type: none"> ・外来放射線治療加算
<ul style="list-style-type: none"> ・高エネルギー放射線治療 	<ul style="list-style-type: none"> ・定位放射線治療呼吸性移動対策加算
<ul style="list-style-type: none"> ・1回線量増加加算 2 (IMRT) 	<ul style="list-style-type: none"> ・画像誘導密封小線源治療加算
<ul style="list-style-type: none"> ・強度変調放射線治療(IMRT) 	<ul style="list-style-type: none"> ・病理診断管理加算 2
<ul style="list-style-type: none"> ・画像誘導放射線治療加算(IGRT) 	<ul style="list-style-type: none"> ・悪性腫瘍病理組織標本加算
<ul style="list-style-type: none"> ・体外照射呼吸性移動対策加算 	<ul style="list-style-type: none"> ・口腔病理診断管理加算 2
<ul style="list-style-type: none"> ・定位放射線治療 	<ul style="list-style-type: none"> ・クラウン・ブリッジ維持管理料

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
会議録を活用した希少がん診断支援情報システムの構築	中西 陽子	腫瘍病理学分野	1,300,000	補 委	文科省科研費
アルコール脱水素酵素の臓器障害発症への関与	奥田 貴久	法医学分野	2,461,154	補 委	文科省科研費
新たな内因性生理活性ガス送達システムの構築と移植医療への応用	平井 宗一	生体構造医学分野	5,330,000	補 委	文科省科研費
生体内インスリン動態制御機構の新規in vivo肝・膵イメージング法による解明	金丸 和典	生理学分野	5,590,000	補 委	文科省科研費
膵β細胞活動を生体内で可視化する新規指標を用いた2型糖尿病治療戦略基盤の探索	飯野 正光	生理学分野	5,850,000	補 委	文科省科研費
変形性膝関節症に対する脱分化脂肪細胞関節内投与による細胞治療開発	松本 太郎	細胞再生・移植医学分野	6,500,000	補 委	文科省科研費
ブタを用いた羊膜上皮幹細胞の門脈内移植後体内動態及び機能評価	三木 敏生	生理学分野	8,432,183	補 委	文科省科研費
妊婦における新型コロナウイルス感染の解析	早川 智	微生物学分野	7,930,000	補 委	文科省科研費

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
				補	委
脱分化脂肪細胞含浸真空凍結乾燥人工真皮による新規な再生医療導入創傷治療材の開発	副島 一孝	形成外科学分野	5,460,000	補	文科省科研費
繊毛がもつ原生知能としてのサイズ認知機構の解明	野田 直紀	医系自然科学分野	2,860,000	補	文科省科研費
発達期脳多元自発活動の数理モデルとその学習理論の構築	早川 隆	薬理学分野	6,759,920	補	文科省科研費
パーキンソン病に対する脳深部刺激療法の治療利益の最大化に関する研究	深谷 親	リハビリテーション医学分野	780,000	補	文科省科研費
インターネットやスマートフォンの適切使用に関する保健教育と介入効果に関する研究	兼板 佳孝	公衆衛生学分野	910,000	補	文科省科研費
マイクロ流路によるコアシェル型PBAナノ粒子の結晶成長制御とヘテロ接着界面の観測	糸井 充徳	医系自然科学分野	650,000	補	文科省科研費
体液上方変位と高二酸化炭素血症が脳血流調節機能に与える複合影響の用量依存性	岩崎 賢一	衛生学分野	1,300,000	補	文科省科研費
不規則再生肝細胞に着目した新規肝癌バイオマーカーと創薬ターゲットの開発	山崎 元美	消化器肝臓内科学分野	1,170,000	補	文科省科研費
自己免疫性脳炎の新規治療ターゲット同定を目指した神経細胞表面抗体の分子病態解明	原 誠	神経内科学分野	1,040,000	補	文科省科研費

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
				補	委
ポータブル睡眠脳波計を用いたうつ病個別化医療の実現に関する研究	鈴木 正泰	精神医学分野	910,000	補	文科省科研費
PIポリアミドによる低酸素細胞に対する放射線増感剤の開発	石橋 直也	放射線医学分野	1,430,000	補	文科省科研費
膀胱内薬剤注入療法における網内系との関連の解明	前林 俊也	放射線医学分野	1,560,000	補	文科省科研費
超早産児の赤血球の生化学的特徴の解明と遷延性重症黄疸感受性遺伝子の同定	森岡 一朗	小児科学分野	1,430,000	補	文科省科研費
肝線維化進展機序解明を目的としたインテグリンβ1と細胞接着に関する研究	増崎 亮太	消化器肝臓内科学分野	910,000	補	文科省科研費
糖尿病性腎症進展におけるUSF1の関与とUSF1結合阻害PIポリアミドの創薬開発	阿部 雅紀	腎臓高血圧内分泌内科学分野	1,170,000	補	文科省科研費
炎症性皮膚疾患患者における末梢血リポクオリアーの解析	藤田 英樹	皮膚科学分野	1,300,000	補	文科省科研費
慢性特発性蕁麻疹の病態におけるマスト細胞と好塩基球の活性化機構の解明	岡山 吉道	医学教育学分野	910,000	補	文科省科研費
Study on mechanisms of rubella virus infection to the fetus, possible alternative cellular receptors and factors affecting the virus infection	TRINH DUY QUANG	微生物学分野	780,000	補	文科省科研費

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
膝島ホルモン分泌細胞の代謝特性の解析と偽膝島作製による代謝・分泌障害機構の解明	石原 寿光	糖尿病代謝内科学分野	1,170,000	補 委	文科省科研費
TGF- β 1を標的とするポリアミドによる肝癌治療法の開発	高木 恵子	消化器外科学分野	1,040,000	補 委	文科省科研費
HPV E7癌蛋白質を標的とした免疫療法のコンパニオン診断開発のための基礎的研究	小松 篤史	産婦人科学分野	1,690,000	補 委	文科省科研費
子宮頸癌におけるWEE1阻害薬の検討およびその免疫環境の評価	池田 悠至	産婦人科学分野	1,560,000	補 委	文科省科研費
気道乳頭腫における予後予測因子の探索:診療の効率化を目指して	松崎 洋海	耳鼻咽喉・頭頸部外科学分野	910,000	補 委	文科省科研費
味細胞内味覚受容Caシグナルの生体内イメージングと亜鉛欠乏による味覚障害機序解析	田中 真琴	耳鼻咽喉・頭頸部外科学分野	1,040,000	補 委	文科省科研費
糖尿病網膜症の発症予防のためのワクチン治療の開発と新規糖尿病網膜症モデルの確立	横田 陽匡	眼科学分野	1,430,000	補 委	文科省科研費
マイクロサージャリーによる再建外科へのロボット支援手術の応用に関する検討	檜村 勉	形成外科学分野	1,560,000	補 委	文科省科研費
救急医療の評価手法の研究ー重症頭部外傷の予後予測モデルの立案ー	前田 幸宏	医療管理学分野	780,000	補 委	文科省科研費

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
				補	委
乳幼児のサポウイルス感染症の分子疫学と感染免疫	沖津 祥子	微生物学分野	910,000	補	文科省科研費
肥満2型糖尿病のインスリン分泌および作用障害におけるXORの役割の解明	藤城 緑	糖尿病代謝内科学分野	1,040,000	補	文科省科研費
微分幾何学に現れる可積分系とその離散化	宇田川 誠一	医系自然科学分野	390,000	補	文科省科研費
「負」の造血制御による赤血球恒常性維持機構	原田 智紀	生体構造医学分野	520,000	補	文科省科研費
核内受容体LXRが制御する肝臓免疫細胞間相互作用の解析	梅田 香織	生化学分野	1,040,000	補	文科省科研費
MYC高発現乳癌における若年性乳癌: 転写因子E2F5の関与機序の解明	増田 しのぶ	腫瘍病理学分野	2,470,000	補	文科省科研費
膝がんモデルマウスを用いた概日リズム異常改善による睡眠障害と膝腫瘍の抑制	佐野 誠	医学研究企画・推進室	1,430,000	補	文科省科研費
免疫ヒト化マウスを用いた心理社会的ストレス関連喘息の分子病態の解明	丸岡 秀一郎	呼吸器内科学分野	780,000	補	文科省科研費
肝内胆管癌におけるエピゲノムaddictionの包括的解明	木暮 宏史	消化器肝臓内科学分野	1,300,000	補	文科省科研費

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
				補	委
肺がんにおけるがん抗原特異的自己抗体の同定	清水 哲男	呼吸器内科学分野	1,300,000	補	文科省科研費
特発性肺線維症における鉄代謝によるミトコンドリアDNA放出機構と線維化の解明	水村 賢司	呼吸器内科学分野	1,820,000	補	文科省科研費
特発性肺線維症に対する脱分化脂肪細胞静脈内投与による治療効果の検討	風間 智彦	細胞再生・移植医学分野	1,690,000	補	文科省科研費
COMMD5による急性腎障害から慢性腎臓病への進展予防メカニズムの解明	松田 裕之	医学研究企画・推進室	1,560,000	補	文科省科研費
多発性嚢胞腎患者由来腎オルガノイドを用いたGSK3β PIボリアミドの創薬	福田 昇	細胞再生・移植医学分野	1,300,000	補	文科省科研費
血液凝固第IX因子由来ペプチドの血管保護作用	日だい 智明	医学教育学分野	520,000	補	文科省科研費
肛門括約筋障害に対する脱分化脂肪細胞由来のexosomeを用いた筋再生治療の検討	細川 崇	小児外科学分野	1,560,000	補	文科省科研費
同一がん遺伝子内複数変異、免疫関連遺伝子発現に着目した肝細胞がんに対する治療戦略	岡村 行泰	消化器外科学分野	1,820,000	補	文科省科研費
脱分化脂肪細胞移植による側副血管リモデリングメカニズムの解明	山元 智衣	細胞再生・移植医学分野	1,040,000	補	文科省科研費

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
				補	委
偽腔閉塞型大動脈解離における急性期炎症と組織修復機序に関する検討	田中 正史	心臓血管外科学分野	1,300,000	補	文科省科研費
ロクロニウムの蛋白結合率から解析する残存筋弛緩の防止策の解明	高木 俊一	麻酔科学分野	780,000	補	文科省科研費
担がんモデルマウスを用いた新たながんサポーターケアの確立	鈴木 孝浩	麻酔科学分野	1,170,000	補	文科省科研費
定量脳波を用いた急性脳炎・脳症の神経損傷の評価指標の開発	森田 昭彦	神経内科学分野	1,040,000	補	文科省科研費
pHイメージングを用いた脳梗塞における酸感受性イオンチャンネルの分子機構の解明	五十嵐 崇浩	神経外科学分野	1,430,000	補	文科省科研費
子宮頸癌前癌病変に対するHPV標的癌ワクチンの効果増強に関する研究	川名 敬	産婦人科学分野	1,690,000	補	文科省科研費
角膜移植におけるエクソソームの役割と治療応用	山上 聡	眼科学分野	1,430,000	補	文科省科研費
マルチオミクスを用いた新規歯周疾患マーカーの開発	土田 祥央	臨床検査医学分野	1,300,000	補	文科省科研費
薬物治療の意思決定プロセスに影響する要因関連の可視化による医療安全対策の研究	渋谷 昭子	医療管理学分野	1,170,000	補	文科省科研費

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
在宅勤務者のための睡眠・精神的健康増進プログラム開発とその有効性に関する疫学研究	松本 悠貴	公衆衛生学分野	260,000	補 委	文科省科研費
miRNA発現パターンと病理所見に基づく機械学習による冠動脈硬化症のクラスター化	鉄 堅	法医学分野	1,300,000	補 委	文科省科研費
ICT活用によるシームレスな摂食嚥下リハビリテーションシステムの開発	永井 多賀子	リハビリテーション医学分野	1,170,000	補 委	文科省科研費
低出生体重-やせ型糖尿病の病態解明と乳清たんぱく質による新たな栄養療法の開発	長野 伸彦	小児科学分野	1,690,000	補 委	文科省科研費
個体差形成に関与する匂い-ストレス反応における選択的抑制機構の解明	松川 睦	生体構造医学分野	1,300,000	補 委	文科省科研費
膵β細胞からのインスリン分泌におけるIP3シグナルによる調節機構の解明	太向 勇	生理学分野	1,690,000	補 委	文科省科研費
長時間絶食後の摂食により回腸FGF15発現量の低下を誘導する転写因子の同定	片渕 剛	生化学分野	1,690,000	補 委	文科省科研費
非ウイルス性肝障害の病態における肝臓免疫細胞ビタミンD受容体の役割	槇島 誠	生化学分野	650,000	補 委	文科省科研費
末梢動脈疾患の病態解明とモデル動物による新規治療の開発応用	羽尾 裕之	人体病理学分野	1,300,000	補 委	文科省科研費

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
				補	委
デュアルエネルギーCTやデジタルX線動画による急性肺血栓塞栓症	岡田 真広	放射線医学分野	1,170,000	補	文科省科研費
薬剤耐性・変異株解析可能なリアルタイム次世代シーケンスによる重症感染症迅速診断	伊藤 嘉規	小児科学分野	1,690,000	補	文科省科研費
心房細動の真の機序を深層学習で徹底解明する	永嶋 孝一	循環器内科学分野	2,340,000	補	文科省科研費
慢性特発性蕁麻疹における自己反応性IgEの簡易な測定法と治療アルゴリズムの開発	葉山 惟大	皮膚科学分野	1,300,000	補	文科省科研費
ヒト造血・免疫システムを有するhumanized pigの開発	李 ヨキン	細胞再生・移植医学分野	1,820,000	補	文科省科研費
HTLV-1の自己抗体産生系やThサブセットに及ぼす影響	中村 英樹	血液膠原病内科学分野	1,300,000	補	文科省科研費
自動瞳孔計を用いた敗血症患者の急性期自律神経反応解析と転帰予測	山口 順子	救急集中治療医学分野	390,000	補	文科省科研費
脳神経外科手術におけるb-FGF徐放化光ゲル化剤の有用性の検証と開発	大谷 直樹	神経外科学分野	1,820,000	補	文科省科研費
哺乳動物卵管の存在意義:その微小環境が受精卵に及ぼす影響のメタボローム的分析	荒木 慶彦	微生物学分野	1,560,000	補	文科省科研費

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
エクソソーム解析を基軸とする「持続性知覚性誘発めまい(PPPD)」の病態解明	野村 泰之	耳鼻咽喉・頭頸部外科学分野	1,820,000	補 委	文科省科研費
ナノ粒子点眼による糖尿病網膜症に対する新規低侵襲治療法の確立	長岡 泰司	眼科学分野	2,080,000	補 委	文科省科研費
ヒト歯原性組織オルガノイド試験管内再構築法の確立と再生医療へ向けた飛躍発展型研究	阿部 成宏	歯科口腔外科学分野	1,830,000	補 委	文科省科研費
Del1由来のE3C1ペプチドによるがん治療の確立	北野 尚孝	歯科口腔外科学分野	1,170,000	補 委	文科省科研費
下顎骨欠損と下歯槽神経損傷に対する骨神経組織同時再生医療確立のための革新的研究	鈴木 惣子	歯科口腔外科学分野	2,060,000	補 委	文科省科研費
マルチメディア模擬患者の開発とオンライン参加型PBLによる臨床推論力の可視化	阿部 百合子	医学教育学分野	1,430,000	補 委	文科省科研費
解剖体の多目的利用を可能とする新たな処置方法の開発及び管理運用システムの構築	平井 宗一	生体構造医学分野	2,470,000	補 委	文科省科研費
ロングリードシーケンスを用いた混合ゲノム試料解析の探索的研究	奥田 貴久	法医学分野	1,950,000	補 委	文科省科研費
細胞間ミトコンドリア移送開始シグナルの解明	三木 敏生	生理学分野	3,380,000	補 委	文科省科研費

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
				補	委
ホジキンリンパ腫における多重蛍光染色を用いた腫瘍微小環境の同定と予後に与える影響	高橋 宏通	血液膠原病内科学分野	130,000	補	文科省科研費
シリトク損症における乳児期肝障害の病態解明と新規治療開発	市野井 那津子	小児科学分野	1,040,000	補	文科省科研費
心不全患者における超音波エラストグラフィー法による臓器うっ血評価法の確立	齋藤 佑記	循環器内科学分野	650,000	補	文科省科研費
先天代謝異常症に対する羊膜上皮細胞治療の開発	高野 智圭	微生物学分野	1,560,000	補	文科省科研費
低温プラズマによる悪性神経膠腫治療の基礎研究	落合 祐之	神経外科学分野	1,170,000	補	文科省科研費
膠芽腫に対するアミノ酸代謝酵素を標的とした分化誘導療法の前臨床研究	山室 俊	神経外科学分野	1,170,000	補	文科省科研費
リウマチ性関節炎におけるマスト細胞のmiR199aによるPGD2制御機序の解明	李 賢鎬	整形外科学分野	1,820,000	補	文科省科研費
腔細菌叢による腔内恒常性維持機構の解明	高田 和秀	微生物学分野	910,000	補	文科省科研費
VHL発現に着目した舌異形成から癌への分子機構の解明と新たな舌癌の治療法の開発	長谷川 央	耳鼻咽喉・頭頸部外科学分野	650,000	補	文科省科研費

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
ウェアラブルデバイスを用いた医師のストレスや情動状態による医療事故への影響の研究	市川 理恵	医療管理学分野	780,000	補 委	文科省科研費
カラー静止画像を用いた経皮ビリルビン測定システムの実用化に向けた臨床研究	香山 一憲	小児科学分野	1,690,000	補 委	文科省科研費
脂肪酸不飽和化酵素を標的とした新規がん免疫療法および、治療効果予測マーカーの開発	加藤 侑希	生体構造医学分野	1,170,000	補 委	文科省科研費
大動脈解離を予測するための大動脈内視鏡を用いた大動脈ハイリスク病変の検討	小嶋 啓介	循環器内科学分野	1,300,000	補 委	文科省科研費
カテーテルアブレーションが心房周囲脂肪および脂肪浸潤に及ぼす経時的変化	渡邊 隆大	循環器内科学分野	910,000	補 委	文科省科研費
糖尿病性腎症の進展における新規BMP拮抗分子の機能解析	小林 洋輝	腎臓高血圧内分泌内科学分野	1,690,000	補 委	文科省科研費
急性骨髄性白血病の緩解維持・再発予測におけるNK活性と白血病細胞表面抗原の重要性	飯塚 和秀	臨床検査医学分野	650,000	補 委	文科省科研費
肝類洞閉塞症候群における血小板活性化受容体CLEC-2の役割解明	大竹 志門	血液膠原病内科学分野	2,030,068	補 委	文科省科研費
自己免疫疾患における免疫チェックポイント分子を応用した新規治療の創出	塚本 昌子	血液膠原病内科学分野	1,560,000	補 委	文科省科研費

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
AIモーションキャプチャーを用いた手指関節可動域の測定法の確立	谷本 浩二	整形外科学分野	780,000	補 委	文科省科研費
硬膜外脂肪組織由来DFATの神経再生能の検討	澤田 浩克	整形外科学分野	910,000	補 委	文科省科研費
先天性サイトメガロウイルス難聴に対する治療効果判定法の新スタンダードの確立	木村 優介	耳鼻咽喉・頭頸部外科学分野	130,000	補 委	文科省科研費
テレワークが労働者の身体的・精神的健康に与える影響についての総合的疫学研究	大塚 雄一郎	公衆衛生学分野	130,000	補 委	文科省科研費
小児心身症における腸内フローラ解析とプロバイオティクスの有効性に関する研究	石井 和嘉子	小児科学分野	1,950,000	補 委	文科省科研費
脳卒中患者の転帰予測に有用な超急性期の栄養状態評価指標の作成と栄養介入効果の検証	秋本 高義	神経内科学分野	910,000	補 委	文科省科研費
相利共生系における水平伝達型から垂直伝達型に至る進化過程の理論的解明	内海 邑	医系人文・社会・情報科学分野	2,600,000	補 委	文科省科研費
頭低位負荷時における内頸静脈弁の静脈血逆流防止機能に関する研究	加藤 智一	衛生学分野	1,170,000	補 委	文科省科研費
機械学習アプローチによる薬物性肝障害の発症に寄与する未知の薬物間相互作用の検出	秋元 勇人	薬理学分野	390,000	補 委	文科省科研費

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
				補	委
小児神経芽腫群腫瘍における自然退縮機構の解明	西巻 はるな	腫瘍病理学分野	1,560,000	補	文科省科研費
低出生体重-非肥満型高血糖発症マウスモデルの病態解明と成長ホルモン治療の効果	青木 亮二	放射線医学分野	2,600,000	補	文科省科研費
低出生体重仔の成獣期高血圧・慢性腎臓病発症機序の解明とタウリンによる予防効果	清水 翔一	小児科学分野	2,210,000	補	文科省科研費
下肢動脈石灰化病変形成機序における細胞外基質代謝および炎症の関与	宇都 健太	人体病理学分野	1,170,000	補	文科省科研費
完全房室ブロックモデルのイヌにおける左脚エリアペーシングに関する検討	古川 力丈	先端不整脈治療学分野(寄附)	1,040,000	補	文科省科研費
担がんマウスの心理社会的ストレスと嗅覚障害に対する鎮痛薬の効果	梶原 一絵	麻酔科学分野	1,820,000	補	文科省科研費
関節リウマチの骨破壊における12-HETEの機能	佐野 有隆	整形外科科学分野	1,430,000	補	文科省科研費
転写因子TFAP2Eによる口腔がん細胞の細胞周期制御機構の解明	稲垣 喜則	総合診療学分野	1,560,000	補	文科省科研費
ヘムオキシゲナーゼ-1に着目した生活習慣病発症モデルマウスの開発	不破 一将	小児科学分野	2,600,000	補	文科省科研費

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
統合失調症における自発性低下の基盤となる認知メカニズムの解明	金子 宜之	精神医学分野	2,340,000	補 委	文科省科研費
卵巣癌に対する効果的なCAR-T細胞療法の開発を目指した基盤的研究	松田 恵里那	産婦人科学分野	1,560,000	補 委	文科省科研費
新生児スクリーニング対象疾患等の先天代謝異常症における生涯にわたる診療体制の整備に関する研究	石毛 美夏	小児科学分野	600,000	補 委	厚生労働科研費
皮膚の遺伝関連性希少難治性疾患群の網羅的研究	葉山 惟大	皮膚科学分野	950,000	補 委	厚生労働科研費
難治性小児消化器疾患の医療水準向上および移行期・成人期のQOL向上に関する研究	越永 従道	小児外科学分野	300,000	補 委	厚生労働科研費
自己免疫疾患に関する調査研究	中村 英樹	血液膠原病内科学分野	200,000	補 委	厚生労働科研費
稀少難治性皮膚疾患に関する調査研究	照井 正	皮膚科学分野	500,000	補 委	厚生労働科研費
慢性腎臓病(CKD)患者に特有の健康課題に適合した多職種連携による生活・食事指導等の実証研究	阿部 雅紀	腎臓高血圧内分泌内科学分野	1,000,000	補 委	厚生労働科研費
適切な睡眠・休養促進に寄与する「新・健康づくりのための睡眠指針」と連動した行動・習慣改善ツール開発及び環境整備	鈴木 正泰	精神医学分野	200,000	補 委	厚生労働科研費

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
適切な睡眠・休養促進に寄与する「新・健康づくりのための睡眠指針」と連動した行動・習慣改善ツール開発及び環境整備	兼板 佳孝	公衆衛生学分野	500,000	補 委	厚生労働 科研費
早産児ビリルビン脳症の診療指針の改訂および包括的診療体制の確立	森岡 一朗	小児科学分野	400,000	補 委	厚生労働 科研費
性感染症に関する特定感染症予防指針に基づく対策の推進に関する研究	川名 敬	産婦人科学分野	850,000	補 委	厚生労働 科研費
慢性活動性EBV病の疾患レジストリ情報に基づく病型別根治療法の確立	伊藤 嘉規	小児科学分野	150,000	補 委	厚生労働 科研費
HAMならびに類縁疾患の患者レジストリによる診療連携体制および相談機能の強化と診療ガイドラインの改訂	原 誠	神経内科学分野	200,000	補 委	厚生労働 科研費
保健所等における性感染症の検査体制の改善と性産業を含むハイリスク層に向けた効果的な受検勧奨のための研究	川名 敬	産婦人科学分野	1,000,000	補 委	厚生労働 科研費
急性弛緩性麻痺等の神経疾患に関する網羅的病原体検索を含めた原因及び病態の究明, 治療法の確立に資する臨床疫学研究	原 誠	神経内科学分野	500,000	補 委	厚生労働 科研費
スモンに関する調査研究	中嶋 秀人	神経内科学分野	1,000,000	補 委	厚生労働 科研費
オーダーメイドな肝炎ウイルス感染防止・重症化予防戦略の確立に資する研究	森岡 一朗	小児科学分野	800,000	補 委	厚生労働 科研費

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
				補	委
長時間労働の医師への健康確保措置に関するマニュアルの改訂のための研究	陳 和夫	睡眠学分野	160,000	補	厚生労働 科研費
飲酒、喫煙等生活習慣の実態把握及び生活習慣の改善に向けた研究	兼板 佳孝	公衆衛生学分野	0	補	厚生労働 科研費
飲酒、喫煙等生活習慣の実態把握及び生活習慣の改善に向けた研究	井谷 修	公衆衛生学分野	0	補	厚生労働 科研費
飲酒、喫煙等生活習慣の実態把握及び生活習慣の改善に向けた研究	大塚 雄一郎	公衆衛生学分野	0	補	厚生労働 科研費
適切な睡眠・休養促進に寄与する「新・健康づくりのための睡眠指針」と連動した行動・習慣改善ツール開発及び環境整備	井谷 修	公衆衛生学分野	0	補	厚生労働 科研費
レジリエント・ヘルスケアによる医療の質向上・安全推進に資する研究	櫻井 淳	救急集中治療医学分野	0	補	厚生労働 科研費
小児・AYA世代がん患者に対する生殖機能温存に関わる心理支援体制の均てん化と安全な長期検体保管体制の確立を志向した研究-患者本位のがん医療の実現を目指して	佐藤 美紀子	産婦人科学分野	0	補	厚生労働 科研費
新型コロナウイルス感染症の流行も考慮に入れた、脳卒中急性期に対するリハビリテーションの標準化・適正化の研究	新見 昌央	リハビリテーション医学分野	0	補	厚生労働 科研費
フィラデルフィア染色体陽性急性リンパ性白血病に対するポナチニブを組み込んだ治療法の確立と分子基盤の解明	八田 善弘	血液膠原病内科学分野	17,290,000	補	日本医療 研究開発 機構

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
				補	委
経口感染によるウイルス性肝炎(A型及びE型)の感染防止、病態解明、治療等に関する研究	神田 達郎	消化器肝臓内科学分野	21,600,000	補	日本医療研究開発機構
重症下肢虚血に対する脱分化脂肪細胞(DFAT)を用いた細胞治療の実用化	松本 太郎	細胞再生・移植医学分野	48,600,782	補	日本医療研究開発機構
母子感染のリスク評価と先天性感染の新たな診断・予防法の開発研究	森岡 一郎	小児科学分野	13,650,000	補	日本医療研究開発機構
日本のトキソプラズマ症の感染実態把握とその制御に向けた協創的研究開発合的対策に向けた開発研究	森岡 一郎	小児科学分野	1,950,000	補	日本医療研究開発機構
粘膜免疫を基盤とした下痢症ウイルスに対する画期的医薬品開発の実用化に資する研究	牛島 廣治	微生物学分野	1,950,000	補	日本医療研究開発機構
早期非小細胞肺癌に対する体幹部定位放射線治療線量増加ランダム化比較試験	前林 俊也	放射線医学分野	507,000	補	日本医療研究開発機構
睡眠時無呼吸患者の持続陽圧(CPAP)導出ビッグデータを利用した、アドヒアランス向上と生活習慣病改善を目指した基盤的研究	権 寧博	呼吸器内科学分野	65,000	補	日本医療研究開発機構
レム睡眠からアプローチする精神・神経疾患の理解とその克服	陳 和夫	呼吸器内科学分野	5,850,000	補	日本医療研究開発機構
肝腫瘍におけるAI支援超音波診断システムの実用化研究	小川 眞広	消化器肝臓内科学分野	845,000	補	日本医療研究開発機構

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
				補	託
AYA世代および成人T細胞性急性リンパ性白血病の小児型治療適用における限界年齢と新規バイオマーカー探索に関する研究	八田 善弘	血液膠原病内科学分野	195,000	補 委	日本医療研究開発機構
タイ王国における下痢症ウイルスに関する研究	牛島 廣治	微生物学分野	4,290,000	補 委	日本医療研究開発機構
利活用を目的とした日本疾患バイオバンクの運営・管理	浅井 聡	臨床試験研究センター	2,200,000	補 委	日本医療研究開発機構
可及的摘出術が行われた初発膠芽腫に対するカルムスチン脳内留置用剤を用いた標準治療確立に関する研究	吉野 篤緒	神経外科学分野	130,000	補 委	日本医療研究開発機構
感染病理学的手法による原因不明感染症および先天性感染症の病原体/病態診断法開発	相澤 志保子	微生物学分野	1,300,000	補 委	日本医療研究開発機構
中性脂肪蓄積心筋血管症の診療に直結するエビデンス創出研究	羽尾 裕之	人体病理学分野	130,000	補 委	日本医療研究開発機構
リンパ管奇形に対する越婢加朮湯の効果を評価する臨床研究	上原 秀一郎	小児外科学分野	130,000	補 委	日本医療研究開発機構
慢性腎臓病を合併した冠動脈疾患ベリーハイリスク患者の心血管イベント抑制を目的とした冠動脈MRプラークイメージングの有効性を検証する多施設前向き無作為化対照試験	松本 直也	循環器内科学分野	1,040,000	補 委	日本医療研究開発機構
小児ウイルス性肝炎患者の病態進展評価及び治療選択に関する研究開発	伊藤 嘉規	小児科学分野	312,000	補 委	日本医療研究開発機構

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
				補助元	委託元
新規培養技術を用いた、扁平腺接合部細胞における高悪性度HPV18型の潜伏持続感染および発癌機構の解明	池田 悠至	産婦人科学分野	2,600,000	補 ○ 委	日本医療研究開発機構
宿主免疫異常に着目したCOVID-19小児例における重症化の分子機構の解明	鮎澤 衛	小児科学分野	390,000	補 ○ 委	日本医療研究開発機構
大規模疾患コホート・アカデミア連携を基盤とするオミックス解析・サーベイランス体制の整備による新興感染症重症化リスク因子の探索	浅井 聡	臨床試験研究センター	1,430,000	補 ○ 委	日本医療研究開発機構

計 173件

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1	Miura Katsuhiko, Takahashi Hiromichi, Nakagawa Masaru, et al.	血液・腫瘍内科／腫瘍センター	Ideal dose intensity of R-CHOP in diffuse large B-cell lymphoma	Expert Review of Anticancer Therapy 2022:22;583-595 05 May	Review
2	Takahashi Hiromichi, Miura Katsuhiko, Nakagawa Masaru, et al.	血液・腫瘍内科	Pirarubicin-based intensive chemotherapy followed by consolidative high-dose chemotherapies for peripheral T-cell lymphomas: A noncomparative phase 2 study	Hematological Oncology 2022:40;1094-1096 04 Jul	Letter
3	Takahashi Hiromichi, Nishimaki Haruna, Nakanishi Yoko, et al.	血液・腫瘍内科	Clinical impact of central nervous system-directed therapies on intravascular large B-cell lymphoma : A single institution's experience	eJHaem 2022:3;467-470 02 Feb	Original Article
4	Tsutsumi Daisuke, Hayama Tatsuya, Miura Katsuhiko, et al.	腫瘍センター	A novel rituximab administration protocol to minimize infusion-related adverse reactions in patients with B-cell lymphoma	International Journal of Clinical Pharmacy 2022:44;366-373 11 Apr	Original Article
5	Gon Y, Maruoka S, Mizumura K	呼吸器内科	Omalizumab and IgE in the Control of Severe Allergic Asthma.	Front Pharmacol. 2022 Mar 10; 13:839011.	Original Article
6	Shaku F, Ishiburo M, Miwa M, et al.	呼吸器内科	Mental Health Status before and during the COVID-19 Pandemic in Patients First Visiting a Psychosomatic Internal Medicine Clinic in Tokyo, Japan	Int J Environ Res Public Health. 2022 Feb 21;19(4):2488	Original Article
7	Nakagawa Y, Shinizu T, Hiranuma H, et al.	呼吸器内科	Successful treatment of refractory brain metastases from ALK-positive lung cancer with lorlatinib.	Thoracic Cancer. 2022 May; 13(9): 1431-1435.	Case report

8	Tatsuoka J, Sano E, Hanashima Y, et al.	日本大学医学部附属板橋病院	Anti-tumor effects of perampanel in malignant glioma cells	Oncol Lett . 2022 Oct 7;24(6):421	Original Article
9	Shiokawa R, Otani N, Kajimoto R, et al.	日本大学医学部附属板橋病院	Glibenclamide attenuates brain edema associated with microglia activation after intracerebral hemorrhage	Neurochirurgie. 2022 Dec;68(6):589-594	Case report
10	Kumagawa T, Moro N, Maeda T, et al.	日本大学医学部附属板橋病院	Anti-inflammatory effect of P2Y1 receptor blocker MRS2179 in a rat model of traumatic brain injury	Brain Res Bull. 2022 Apr;181:46-54	Review
11	Yagi C, Tatsuoka J, Sano E, et al.	日本大学医学部附属板橋病院	Anti-tumor effects of anti-epileptic drugs in malignant glioma cells	Oncol Rep. 2022 Dec;48(6):216	Letter
12	Daisuke Sato	呼吸器外科	Intrapericardial Ectopic Goiter: A Very Unusual Presentation	Annals of Thoracic and Cardiovascular Surgery 2022	Case report
13	Yuusuke Fujiwara, Yuu Tanizawa, Kenta Shinoda, et al	日本大学医学部附属板橋病院 歯科口腔外科	Unicentric plasma cell type of Castleman's disease in the submandibular: A case report and literature review.	Journal of Oral and Maxillofacial Surgery, Medicine, and Pathology 2023年1月	Case report
14	Shigehiro Abe, Tatsuro Kobayashi, Naoko Yokomizo, et al	日本大学医学部附属板橋病院 歯科口腔外科	Evaluation and prediction of healing morphology after closed reduction for unilateral mandibular condyle fractures:A retrospective study.	Journal of Craniofacial Surgery.2022.10.1097	Original Article
15	Shigehiro Abe, Atsushi Kaida, Kazunori Knemaru, et al.	日本大学医学部附属板橋病院 歯科口腔外科	Differences in the stemness characteristics and molecular markers of distinct human oral tissue neural crest-derived multilineage cells.	Cell Prolif.2022;55:e13286	Original Article

16	Sezai A, Tanaka A, Imai T, et al.	心臓血管外科	Comparing the Effects of Canagliflozin vs. Glimpiride by Body Mass Index in Patients with Type 2 Diabetes and Chronic Heart Failure: A Subanalysis of the CANDLE Trial	Biomedicines. 2022 July;10(7):1656	Original Article
17	Kitashima F, Sezai A, Tanaka M, et al.	心臓血管外科	A Case of Thoracic Aortic Endovascular Repair of a Ruptured Mycotic Aortic Aneurysm Due to Pasteurella Multocida	The Heart Surgery Forum. 2022 Sep;25(5):E680-E682	Case report
18	Machii Y, Sezai A, Tanaka M, et al.	心臓血管外科	Coronary Artery Stenosis Caused by Primary Malignant Pericardial Mesothelioma in a 76-Year-Old Man	Texas Heart Institute Journal. 2022 Nov;49(6):e207456	Case report
19	Sezai A, Sekino H, Tanaka M, et al.	心臓血管外科	A Single Arm Clinical Study on the Effects of Continuous Erythropoietin Receptor Activator Treatment in Non-Dialysis Patients with Chronic Heart Failure and Renal Anemia	Biomedicines. 2023 Mar;11(3):946	Original Article
20	Saigusa T, Watanabe K, Ishihara H et al.	糖尿病・代謝内科	Cardio-ankle vascular index is more closely associated than brachial-ankle pulse wave velocity with arterial damage and risk of cardiovascular disease in patients with diabetes.	BMC Cardiovasc Disord. 2022 Aug. (オンライン)	Original Article
21	Watanabe K, Saigusa T, Ishihara H et al.	糖尿病・代謝内科	Fibrosis-4 index is closely associated with arterial damage and future risk of coronary heart disease in type 2 diabetes.	International Journal of Hypertension. 2022 Jul. (オンライン)	Original Article
22	Kusakabe M, Taguchi A, Kawana K. et al.	産婦人科	Application of organoid culture from HPV18-positive small cell carcinoma of the uterine cervix for precision medicine	Cancer Med . 2023 Apr;12(7):8476-8489	Original Article
23	Mimura N, Nagamatsu T, Kawana K. et al.	産婦人科	Suppression of human trophoblast syncytialization by human cytomegalovirus infection	Placenta . 2022 Jan;117:200-208	Original Article

24	Kusakabe M, Taguchi A, Kawana K. et al.	産婦人科	Cells with stem-like properties are associated with the development of HPV18-positive cervical cancer	Cancer Sci . 2023 Mar;114(3):885-895	Original Article
25	Kawatake R, Maebayashi A, Kawana K. et al.	産婦人科	Successful surgical treatment of postmyomectomy uterine diverticulum: a case report	BMC Womens Health, 2023 Aug 3;23(1):406	Case report
26	Komatsu H, Nakagawa S,, Kawana K., et al.	産婦人科	Impact of the COVID-19 pandemic on surgery for benign diseases in gynecology: A nationwide survey by the Japan Society of Obstetrics and Gynecology	J Obstet Gynaecol Res . 2023 Jan;49(1):314-320	Original Article
27	Katoh K, Katoh Y, Kawana K, et.al	産婦人科	Serum free fatty acid changes caused by high expression of Stearoyl-CoA desaturase 1 in tumor tissues are early diagnostic markers for ovarian cancer	Cancer Res Commun; 3(8) August 2023	Original Article
28	Hayama K, Fujita H	皮膚科	Improvement of dupilumab-associated conjunctivitis after switching to upadacitinib in a patient with atopic dermatitis.	Dermatologic Therapy 2022 Jul; 35(7): e15575.	Original Article
29	Hayama K, Fujita H, Terui T	皮膚科	Current trend in the treatment of generalized pustular psoriasis in Japan: Results from a questionnaire-based epidemiological study.	Journal of Dermatology 2022 Dec; 49(12): e439-e440.	Original Article
30	Hayama K, Izaki S, Hayashi K, et al.	皮膚科	A case of acute exacerbation of chronic spontaneous urticaria due to COVID-19 immediately after omalizumab administration.	Postepy Dermatologii i Alergologii. 2022 Dec; 39(6): 1171-1173.	Case report
31	Yamaguchi J, Kinoshita K, Nakagawa K, et al.	救命救急センター	Undernutrition Scored Using the CONUT Score with Hypoglycemic Status in ICU-Admitted Elderly Patients with Sepsis Shows Increased ICU Mortality.	Diagnostics (Basel). 2023 Feb 17;13(4):762.	Original Article

32	Kuwana T, Kinoshita K, Ihara S, et al.	救命救急センター	The Characteristics of Patients with Severe COVID-19 Pneumonia Treated with Direct Hemoperfusion Using Polymyxin B- Immobilized Fiber Column (PMX-DHP)	Infect Drug Resist. 2022 Aug 24;15:4819-4828.	Original Article
33	Sakurai A, Ohta S, Oda J, et al.	救命救急センター	ABCD approach at the #7119 center, telephone triage system in Tokyo, Japan; a retrospective cohort study.	BMC Emerg Med. 2022 Apr 19;22(1):66.	Original Article
34	Tago K, Tsukada J, Sudo N, et al.	放射線診断科	Comparison between CT volumetry and extracellular volume fraction using liver dynamic CT for the predictive ability of liver fibrosis in patients with hepatocellular carcinoma	European Radiology 2022 Nov;32(11):7555-7565.	Original Article
35	Okada M, Numata K, Nihonmatsu H, et al.	放射線診断科	Pathological appearance of focal liver reactions after radiotherapy for hepatocellular carcinoma Case Report	Diagnostics, 2022, 12(5), 1072	Original Article
36	Nakazawa Y, Okada M, Hyodo T, et al.	放射線診断科	Comparison between CT-volumetry, Technetium99m galactosyl-serum-albumin scintigraphy and gadoteric-acid-enhanced MRI to estimate the liver fibrosis stage in preoperative patients	European Radiology 2023 in press	Original Article
37	Aoki R, Nagano N, Hijikata M, et al.	放射線診断科	Distal femoral epiphyseal ossification center absence in congenital syphilis: A case series.	Pediatr Int. 2022 Jan;64(1):e15234.	Others
38	Ishibashi N, Maebayashi T, Hata M, et al.	放射線治療科	Radiation therapy for pelvic recurrent colorectal or gynecological cancer: Is whole pelvic irradiation necessary?	Annals of Palliative Medicine 2022 11 (6):1855-1864.	Original Article
39	Ishibashi N, Maebayashi T, Kimura Y, et al.	放射線治療科	Bone scan index on bone scintigraphy and radiation therapy for bone metastases from cancers other than prostate and breast cancers: a retrospective observational study	Journal of Cancer Research and Therapeutics 2022 Oct-Dec;18(6):1716-1721.	Original Article

40	Ishibashi N, Maebayashi T, Aizawa T, et al.	放射線治療科	Coronavirus disease 2019 (COVID-19) in patients before, during, or after lung irradiation, and serum SP-A and SP-D levels	Thorac Cancer 2022 Nov;13(22):3200-3207.	Original Article
41	Morioka I, Toishi S, Kusaka T, et al.	小児科	Medical care of newborns born to mothers with confirmed or suspected severe acute respiratory syndrome coronavirus 2 infections in Japan.	Pediatrics International 2022; 64 (1): e14855.	Original Article
42	Morohashi T, Wada N, Odaira S, et al.	小児科	b2-microglobulin measurement with dried urine spots for congenital anomalies of the kidney and urinary tract screening in 3-year-old children.	Pediatrics International 2022; 64 (1): e15077.	Original Article
43	Hijkata M, Morioka I, Okahashi A, et al.	小児科	A prospective cohort study of newborns born to mothers with serum Toxoplasma gondii immunoglobulin M positivity during pregnancy.	Journal of Infection and Chemotherapy. 2022; 28(4): 486-491.	Original Article
44	Fuwa K, Nagano N, Iwata F, et al.	小児科	Cholesterol uptake capacity in cord blood of preterm infants.	Clinical Laboratory 2022; 68: 2181-2185.	Original Article
45	Nagano N, Katayama D, Hara K,	小児科	Percentile-based reference values of umbilical cord blood insulin-like growth factor-1 in Japanese newborns.	Journal of Clinical Medicine 2022; 11(7): 1889.	Original Article
46	Morioka I, Kakei Y, Omori T, et al.	小児科	Oral valganciclovir therapy in infants aged ≤2 months with congenital cytomegalovirus disease: A multicenter, single-arm, open-label clinical trial in Japan.	Journal of Clinical Medicine 2022; 11(13): 3582.	Original Article
47	Katayama D, Nagano N, Shimizu S, et al.	小児科	A non-obese hyperglycemic mouse model that develops after birth with low birthweight.	Biomedicines 2022; 10(7): 1642.	Original Article

48	Abe Y, Tonouchi R, Hara M, et al.	小児科	Visceral fat area measured by abdominal bioelectrical impedance analysis in school-aged Japanese children.	Journal of Clinical Medicine 2022; 11(14): 4148.	Original Article
49	Aoki M, Urakami T, Nagano N, et al.	小児科	Association of plasma cortisol levels with gestational age and anthropometric values at birth in preterm infants.	International Journal of Environmental Research and Public Health 2022; 19(18): 11448.	Original Article
50	Shimozawa K, Contreras-Ruiz L, Sousa S, et al.	小児科	Ex vivo generation of regulatory T cells from liver transplant recipients using costimulation blockade.	American Journal of Transplantation 2022; 22(2): 504-518.	Original Article
51	Aoki M, Uehara S, Aoki R, et al.	小児科	Adrenal cytomegaly with elevated serum androgen levels in a patient with Beckwith-Wiedemann syndrome.	Endocrine Journal 2022; 69(8): 919-926.	Case report
52	Maedomari T, Fuwa K, Nagano N, et al.	小児科	Early intervention for renal dysfunction due to terminal deletion of chromosome 10q by monitoring cystatin-C.	Journal of Nihon University Medical Association 2022; 81(3): 151-154.	Case report
53	Yagasaki H, Hirai M, Kanezawa K, et al.	小児科	Successful treatment for diffuse large B-cell lymphoma in a Japanese adolescent with PIK3CD germ-line mutation: Stem cell transplantation after reduced-intensity conditioning.	Annals of Hematology 2022; 101(7): 1617-1619.	Case report
54	Okahashi A, Hijikata M, Kimura Y, et al.	小児科	Low-tone hearing impairment in a newborn with congenital cytomegalovirus infection.	Pediatrics International 2022; 64 (1): e15218.	Case report
55	Aoki R, Nagano N, Hijikata M, et al.	小児科	Distal femoral epiphyseal ossification center absence in congenital syphilis: a case series.	Pediatrics International 2022; 64 (1): e15234.	Case report

56	Go H, Nagano N, Sumi K, et al.	小児科	Intracranial hemorrhage due to vitamin K deficiency in an infant with arteriovenous malformation.	Pediatrics International 2022; 64 (1): e15238.	Case report
57	Shimizu S, Morohashi T, Kanezawa K, et al.	小児科	Successful treatment with anti-C5 monoclonal antibody in a Japanese adolescent who developed thrombotic microangiopathy after autologous bone marrow transplantation for malignant lymphoma.	Frontiers in Pediatrics 2022; 10: 908183.	Case report
58	Tanaka Y, Shimizu S, Namiki H, et al.	小児科	A neonate with interstitial pneumonia due to human metapneumovirus infection.	Pediatrics International 2022; 64 (1): e15284.	Case report
59	Nagano N, Kaneko C, Ohashi S, et al.	小児科	Non-obese type 2 diabetes with a history of being an extremely preterm small-for-gestational age infant without early adiposity rebound.	International Journal of Environmental Research and Public Health 2022; 19(14): 8560.	Case report
60	Terada H, Ishii W, Kawaguchi T, et al.	小児科	Relapsing neuromyelitis optica spectrum disorder due to non-compliance to oral corticosteroid therapy: A case report.	Medicine: Case Reports and Study Protocols 2022; 3: 12.	Case report
61	Sasaki-Tanaka R, Nagulapalli Venkata KC, Okamoto H, et al.	消化器・肝臓内科	Evaluation of Potential Anti-Hepatitis A Virus 3C Protease Inhibitors Using Molecular Docking	International Journal of Molecular Sciences 2022 May;23(11):6044	Original Article
62	Masuzaki R, Kanda T, Sasaki R, et al.	消化器・肝臓内科	Suppressors of Cytokine Signaling and Hepatocellular Carcinoma	Cancers 2022 May;14(10):2549	Review
63	Kanda T, Sasaki-Tanaka R, Nakamoto S	消化器・肝臓内科	Hepatitis A Virus Infection and Molecular Research	International Journal of Molecular Sciences 2022 Jun;23(13):7214	Others

64	Matsumoto N, Ogawa M, Kaneko M, et al.	消化器・肝臓内科	Contrast-enhanced ultrasonography for blood flow detection in hepatocellular carcinoma during lenvatinib therapy	Journal of Medical Ultrasonics 2022 Jul;49(3):425-432	Original Article
65	Ikegami C, Kanda T, Ishii T, et al.	消化器・肝臓内科	COVID-19 After Treatment With Direct-Acting Antivirals for HCV Infection and Decompensated Cirrhosis: A Case Report	In Vivo 2022 Jul-Aug;36(4):1986-1993	Case report
66	Ogura K, Ichijima R, Ikehara H	消化器・肝臓内科	Traction-assisted endoscopic submucosal dissection for esophageal neoplasms using a novel traction device	Digestive Endoscopy 2022 Jul;34(5):103-104	Case report
67	Kogure H, Nakai Y, Fujishiro M	消化器・肝臓内科	How should needle tract seeding be addressed in endoscopic ultrasound-guided fine-needle aspiration?	Digestive Endoscopy 2022 Jul;34(5):958-959	Others
68	Kanda T, Sasaki-Tanaka R, Ishii T, et al.	消化器・肝臓内科	Acute Liver Failure and Acute-on-Chronic Liver Failure in COVID-19 Era	Journal of Clinical Medicine 2022 Jul;11(14):4249	Others
69	Sasaki-Tanaka R, Shibata T, Moriyama M, et al.	消化器・肝臓内科	Amantadine and Rimantadine Inhibit Hepatitis A Virus Replication through the Induction of Autophagy	Journal of Virology 2022 Sep;96(18):e0064622	Original Article
70	Sasaki-Tanaka R, Ray R, Moriyama M, et al.	消化器・肝臓内科	Molecular Changes in Relation to Alcohol Consumption and Hepatocellular Carcinoma	International Journal of Molecular Sciences 2022 Aug;23(17):967	Review
71	Kuniyoshi N, Imazu H, Nomura S, et al.	消化器・肝臓内科	Endoscopic biliary drainage using a 4-Fr catheter for biliary obstruction: a pilot study	Minimally Invasive Therapy & Allied Technologies 2022 Oct;31(7):1035-1040	Original Article

72	Ichijima R, Ikehara H, Maeda T, et al.	消化器・肝臓内科	First dose-ranging study of remimazolam in Japanese patients undergoing gastrointestinal endoscopy: Phase II investigator-initiated clinical trial	Digestive Endoscopy 2022 Nov;34(7):1403-1412	Original Article
73	Kanda T, Matsumoto N, Ishii T, et al.	消化器・肝臓内科	Liver Transplantation from a Human Leukocyte Antigen-Matched Sibling Donor: Effectiveness of Direct-Acting Antiviral Therapy against Hepatitis C Virus Infe	Reports 2022 Dec;5(4):49	Case report
74	Ichijima R, Ikehara H, Sumida Y, et al.	消化器・肝臓内科	Randomized controlled trial comparing conventional and traction endoscopic submucosal dissection for early colon tumor (CONNECT-C trial)	Digestive Endoscopy 2023 Jan;35(1):86-93	Original Article
75	Kanda T, Matsumoto N, Ishii T, et al.	消化器・肝臓内科	Chronic Hepatitis C: Acute Exacerbation and Alanine Aminotransferase Flare	Viruses 2023 Jan;15(1):183	Review
76	Sasaki-Tanaka R, Masuzaki R, Okamoto H, et al.	消化器・肝臓内科	Drug Screening for Hepatitis A Virus (HAV): Nicotinamide Inhibits c-Jun Expression and HAV Replication	Journal of Virology 2023 Feb;97(2):e0198722	Original Article
77	Kanezawa S, Moriyama M, Kanda T, et al.	消化器・肝臓内科	Gut-Microbiota Dysbiosis in Stroke-Prone Spontaneously Hypertensive Rats with Diet-Induced Steatohep	International Journal of Molecular Sciences 2023 Feb;24(5):4603	Original Article
78	Kanda T	消化器・肝臓内科	Molecular Mechanism of Chronic Viral and Non-Viral Liver Diseases	International Journal of Molecular Sciences 2023 Mar;24(7):6218	Others
79	Kanda T, Masuzaki R, Sasaki-Tanaka R, et al.	消化器・肝臓内科	Molecular Mechanisms, Diagnosis and Treatments in Digestive Malignancy	International Journal of Molecular Sciences 2023 Mar;24(7):6471	Others

80	Murata N	循環器内科	Clinical outcomes for intracoronary imaging strategies at different medical facilities in Japanese patients with coronary artery disease: the SAKURA imaging PCI Registry	HEART AND VESSELS	Original Article
81	Otsuka N	循環器内科	Actual tissue temperature during ablation index-guided high-power short-duration ablation versus standard ablation: Implications in terms of the efficacy and safety of atrial fibrillation ablation.	JOURNAL OF CARDIOVASCULAR ELECTROPHYSIOLOGY	Original Article
82	Watanabe R	循環器内科	Different Determinants of the Recurrence of Atrial Fibrillation and Adverse Clinical Events in the Mid-Term Period After Atrial Fibrillation Ablation	CIRCULATION JOURNAL	Original Article
83	Fukamachi D	循環器内科	Dynamic pulmonary circulation without contrast media for an acute pulmonary thromboembolism	European Heart Journal-Cardiovascular Imaging	Case report
84	Kojima K	循環器内科	Aortic plaque burden predicts vascular events in patients with cardiovascular disease: The EAST-NOGA study	Journal of Cardiology	Original Article
85	Hayashida S	循環器内科	Modified ablation index: a novel determinant of a successful first-pass left atrial posterior wall isolation	HEART AND VESSELS	Original Article
86	Miyagawa M	循環器内科	Enhanced Computed Tomography of Type 2 Myocardial Infarction	Internal medicine	Others
87	Fujito H	循環器内科	Association between the health insurance status and clinical outcomes among patients with acute heart failure in Japan	HEART AND VESSELS	Original Article

88	Wakamatsu Y	循環器内科	Resetting of atrial tachycardia by a scanned extrastimulus at a downstream site on a multielectrode catheter: a simple diagnostic maneuver for locating the macroreentrant atrial tachycardia circuit	JOURNAL OF INTERVENTIONAL CARDIAC ELECTROPHYSIOLOGY	Original Article
89	Kitano D	循環器内科	Effect of Rivaroxaban and Clopidogrel Combination Therapy on In-Stent Responses After Everolimus-Eluting Stent Implantation in a Porcine Coronary	Journal of Atherosclerosis and Thrombosis	Original Article
90	Saito Y	循環器内科	Prognostic value of the MELD-XI score in patients undergoing cardiac resynchronization therapy	ESC Heart Failure	Original Article
91	Saito Y	循環器内科	Clinical significance of the albumin-bilirubin score in patients with heart failure undergoing cardiac resynchronization therapy	HEART AND VESSELS	Original Article
92	Arai R	循環器内科	Prognostic Significance of a Combination of Cardiogenic Shock and the Critical Culprit Lesion Location in ST-Elevation Myocardial Infarctions	International Heart Journal	Original Article
93	Miyagawa M	循環器内科	Clinical Implication of the Right Ventricular/Left Ventricular Diameter Ratio in Patients with Pulmonary Thromboembolism	International Heart Journal	Original Article
94	Saito Y	循環器内科	Quantitative estimation of pulmonary artery wedge pressure from chest radiographs by a regression convolutional neural network	HEART AND VESSELS	Original Article
95	Fujito H	循環器内科	Prognostic value of the normalization of left ventricular mechanical dyssynchrony after revascularization in patients with coronary artery disease	HEART AND VESSELS	Original Article

96	Miyagawa M	循環器内科	Utility of Coronary Computed Tomography Angiography in Acute Coronary Syndrome Associated With Infectious Endocarditis	Circulation Journal	Case report
97	Mizobuchi S	循環器内科	Prognostic importance of improving hepatorenal function during hospitalization in acute decompensated heart failure	ESC Heart Failure	Original Article
98	Saito Y	循環器内科	Low alanine aminotransferase levels are independently associated with mortality risk in patients with atrial fibrillation.	Scientific Reports	Original Article
99	Ebuchi Y	循環器内科	Serial Changes of Aortic Vulnerable Plaques Observed via Non-Obstructive General Angioscopy	International Heart Journal	Original Article
100	Murata N	循環器内科	Cardiovascular manifestations identified by multi-modality imaging in patients with long COVID .	Frontiers in Cardiovascular Medicine	Original Article
101	Fukamachi D	循環器内科	Edoxaban Monotherapy in Nonvalvular Atrial Fibrillation Patients with Coronary Artery Disease.	Journal of Interventional Cardiology	Original Article
102	Hashimoto N	循環器内科	Autopsy and Cardiac Magnetic Resonance Image Case of Bevacizumab-Related Cardiomyopathy.	Journal of cardiovascular development and disease	Case report
103	Hayashida S	循環器内科	A troubling tachycardia	Heart Rhythm	Case report

104	Arai R	循環器内科	Cardiotoxicity of Aconite Poisoning Evaluated by Multimodalities.	Circulation. Cardiovascular imaging	Case report
105	Akutsu Naotaka	循環器内科	Clinical Importance of the LDL-C/Apolipoprotein B Ratio for Neointimal Formation after Everolimus-Eluting Stent Implantations	Journal of Atherosclerosis and Thrombosis	Original Article
106	Fujito Hidesato	循環器内科	Myocardial Ischemia due to Rapid Atrial Fibrillation Revealed Using the Instantaneous Wave-Free Ratio.	International Heart Journal	Case report
107	Fukamachi Daisuke	循環器内科	Characteristics and clinical outcomes of Japanese patients with venous thromboembolism receiving under-dose rivaroxaban: subanalysis of J'xactly.	Current Medical Research and Opinion	Original Article
108	Fukamachi Daisuke	循環器内科	Protective effect of the Impella on the left ventricular function after acute broad anterior wall ST elevation myocardial infarctions with cardiogenic shock: cardiovascular magnetic resonance imaging strain analysis.	BMC Cardiovascular Disorders	Original Article
109	Kobayashi H	腎臓・高血圧・内分泌内科	Neuroblastoma suppressor of tumorigenicity 1 is a circulating protein associated with progression to end-stage kidney disease in diabetes.	Sci Transl Med. 2022;14:eabj2109.	Original Article
110	Kobayashi H	腎臓・高血圧・内分泌内科	Results of untargeted analysis using the SOMAscan proteomics platform indicates novel associations of circulating proteins with risk of progression to kidney failure in diabetes.	Kidney Int. 2022;102:370-381	Original Article
111	Utsunomiya K	腎臓・高血圧・内分泌内科	Implantation of dedifferentiated fat cells ameliorated antineutrophil cytoplasmic antibody glomerulonephritis by immunosuppression and increases in tumor necrosis factor-stimulated gene-6.	Stem Cell Res Ther. 2022;13:319.	Original Article

112	Otsuki T	腎臓・高血圧・内分泌内科	TWIST1 transcriptionally upregulates complement 3 in glomerular mesangial cells from spontaneously hypertensive rats.	Hypertens Res. 2022;45:66-74.	Original Article
113	Otsuki T	腎臓・高血圧・内分泌内科	Twist-related protein 1 induces epithelial-mesenchymal transition and renal fibrosis through the upregulation of complement 3.	PLoS One. 2022;17:e0272917.	Original Article
114	Kamiyama Y, Kaneko Y, Saitoh K et al.	精神神経科	Differences in psychosocial factors and sleep study findings between delayed sleep-wake phase disorder and hypersomnia in teenagers	Sleep and Biological Rhythms 2023 Jan; 21: 241-247	Original Article
115	Saitoh K, Yoshiike T, Kaneko Y et al.	精神神経科	Associations of nonrestorative sleep and insomnia symptoms with incident depressive symptoms over 1-2 years: longitudinal results from the Hispanic Community Health Study/Study of Latinos and Sueño Ancillary Study	Depression and Anxiety 2022 May; 39: 419-428	Original Article
116	Uchiyama M, Ito K, Okumura Y et al.	睡眠センター	Medical Costs Associated with Insomnia Treatment with Suvorexant Monotherapy in Japan: Results from a Retrospective Cohort Study Using a Large-Scale Claims Database	Drugs Real World Outcomes Jun; 9: 219-29	Original Article
117	Uchiyama M, Kambe D, Imadera Y et al.	睡眠センター	Effects of TS-142, a novel dual orexin receptor antagonist, on sleep in patients with insomnia: a randomized, double-blind, placebo-controlled phase 2 study	Psychopharmacology 2022 Jul; 239: 2143-2154	Original Article
118	Otsuki R, Matsui K, Yoshiike T et al.	精神神経科	Decrease in Social Zeitgebers Is Associated With Worsened Delayed Sleep-Wake Phase Disorder: Findings During the Pandemic in Japan	Frontiers in Psychiatry 2022 Jun 9;13:898600	Original Article
119	Hirose S, Hara M, Kamei S, et al.	脳神経内科	Characteristics of clinical relapses and patient-oriented long-term outcomes of patients with anti-N-methyl-D-aspartate receptor encephalitis.	J Neurol. 2022 May;269(5):2486-2492.	Original Article

120	Yokota Y, Ishihara M, Ninomiya S, et al.	脳神経内科	Locked-in Syndrome Due to Meningovascular Syphilis: A Case Report and Literature Review.	Intern Med. 2022 May 15;61(10):1593-1598.	Review
121	Mizoguchi T, Hara M, Hirose S, et al.	脳神経内科	Novel qEEG Biomarker to Distinguish Anti- NMDAR Encephalitis From Other Types of Autoimmune Encephalitis.	Front Immunol. 2022 Feb 15;13:845272.	Original Article
122	Hirose S, Sudo N, Okada M, et al.	脳神経内科	Intramedullary spinal cord abscess associated with right-to-left shunt via right superior vena cava draining into left atrium: A case report.	Medicine (Baltimore). 2022 Jul 1;101(26):e29740.	Case report
123	Mizoguchi T, Hara M, Nakajima H.	脳神経内科	Neurosyphilis presenting as autoimmune limbic encephalitis: A case report and literature review.	Medicine (Baltimore). 2022 Aug 19;101(33):e30062.	Review
124	Hara M, Ishihara M, Nakajima H.	脳神経内科	Use of the FilmArray® Meningitis/Encephalitis panel to detect pathogenic microorganisms in cerebrospinal fluid specimens: a single-center retrospective study.	J Int Med Res. 2022 Oct;50(10):300060522112 9561.	Original Article
125	Murayama A, Sugaya K, Hara M, et al.	脳神経内科	Leucine-rich Glioma-inactivated 1 Encephalitis Followed by Isaacs Syndrome: Alternating Presence of Pathogenic Autoantibodies to Leucine-rich Glioma-inactivated 1 and Contactin-associated Protein-like 2.	Intern Med. 2022 Oct 12.	Case report
126	Akimoto T, Hara M, Tasaki K, et al.	脳神経内科	Delayed encephalopathy after COVID-19: A case series of six patients.	Medicine (Baltimore). 2022 Oct 21;101(42):e31029.	Case report
127	Wada T, Higashiyama Y, Kunii M, et al.	脳神経内科	Ocular flutter as the presenting manifestation of autoimmune glial fibrillary acidic protein astrocytopathy.	Clin Neurol Neurosurg. 2022 Aug;219:107307.	Case report

128	Ogawa K, Akimoto T, Hara M, et al.	脳神経内科	A case of atypical capsular warning syndrome of long duration.	日大医学雑誌 (Journal of Nihon University Medical Association) 81(4):227-231. 2022	Case report
129	Akimoto T, Hara M, Ishihara M, et al.	脳神経内科	Post-Stroke Pneumonia in Real-World Practice: Background, Microbiological Examination, and Treatment.	Neurol. Int. 2023, 15(1), 69-77	Original Article
130	Tanaka K, Tani T, Ogawa K, et al.	脳神経内科	Trial of cytotoxic T cell induction in mice as an ex vivo model of paraneoplastic neurologic syndrome with anti-Hu antibodies.	Clinical and Experimental Neuroimmunology 13 (4): 316-322, 2022.	Original Article
131	Obinata D, Funakoshi D, Takayama K, et al.	脳神経内科	OCT1-target neural gene PFN2 promotes tumor growth in androgen receptor-negative prostate cancer.	Sci Rep 2022;12(1):6094.	Original Article
132	Funakoshi D, Obinata D, Fujiwara K, et al.	脳神経内科	Antitumor effects of pyrrole-imidazole polyamide modified with alkylating agent on prostate cancer cells.	Biochem Biophys Res Commun 2022;623:9-16.	Case report
133	Murata Y, Obinata D, Matsumoto T, et al.	泌尿器科	Urethral injection of dedifferentiated fat cells ameliorates sphincter damage and voiding dysfunction in a rat model of persistence stress urinary incontinence.	Int urol Nephrol. 2022 Apr; 54: 789-797	Original Article
134	Obinata D, Funakoshi D, Takayama K, et al.	泌尿器科	OCT1-target neural gene PFN2 promotes tumor growth in androgen receptor-negative prostate cancer.	Sci Rep. 2022 Apr; 12: 6094	Original Article
135	Obinata D, Yamaguchi K, Hashimoto S, et al.	泌尿器科	Tension-free vaginal mesh for patients with pelvic organ prolapse: mid-term functional outcomes.	J Int Med Res. 2022 Jun; 50: 3000605221106434	Original Article

136	Funakoshi D, Obinata D, Fujiwara K, et al.	泌尿器科	Antitumor effects of pyrrole-imidazole polyamide modified with alkylating agent on prostate cancer cells.	Biochem Biophys Res Commun. 2022 Oct; 623: 9-16	Original Article
137	Obinata D, Funakoshi D, Sakurai F, et al.	泌尿器科	Real-world efficacy of sequential nivolumab for metastatic renal cancer after first-line molecular targeting therapy.	Medicine (Baltimore). 2022 Aug; 101:29510	Original Article
138	Obinata D, Nakahara K, Yoshizawa T, et al.	泌尿器科	Characteristics of prostate biopsy in patients under the dutasteride treatment.	Medicine (Baltimore). 2022 Nov; 101:e31658	Original Article
139	Nakayama T, Masui T	臨床検査医学科	Precision management of gene-based tests not covered by the National Health Insurance system in Japan: a questionnaire-based study	J Hum Genet . 2022 Jun;67(6):311-321. doi: 10.1038/s10038-021-00999-7.	Original Article
140	Tsuchida S, Nakayama T	臨床検査医学科	MALDI-Based Mass Spectrometry in Clinical Testing: Focus on Bacterial Identification	Appl. Sci. 2022, 12(6), 2814; https://doi.org/10.3390/app12062814	Review
141	Tsuchida S, Nakayama T	臨床検査医学科	Metabolomics Research in Periodontal Disease by Mass Spectrometry	Molecules. 2022 Apr 30;27(9):2864. doi: 10.3390/molecules27092864.	Review
142	Shimada N, Nakayama T, Umemura H, et al.	臨床検査医学科	A Case-Control Study of the APELA Gene and Hypertensive Disorders of Pregnancy	Medicina (Kaunas). 2022 Apr 26;58(5):591. doi: 10.3390/medicina58050591.	Original Article
143	Umemura H, Nakayama T, et al.	臨床検査医学科	Elucidation of the Mechanism and Significance of the Erythrocyte Sedimentation Rate from Clinical Laboratory Data.	Acta Med Okayama . 2022 Aug;76(4):447-455. doi: 10.18926/AMO/63904.	Original Article

144	Iizuka K, Nakayama T, et al.	臨床検査医学科	von Willebrand factor activity levels are influenced by driver mutation status in polycythemia vera and essential thrombocythemia patients with well-controlled platelet counts	Eur J Haematol . 2022 Dec;109(6):779-786. doi: 10.1111/ejh.13866.	Original Article
145	Yoshikawa M, Nakayama T, et al.	臨床検査医学科	Estimating causal effects of genetically predicted type 2 diabetes on COVID-19 in the East Asian population	Front Endocrinol (Lausanne) . 2022 Dec 7;13:1014882. doi: 10.3389/fendo.2022.1014882.	Original Article
146	Igarashi A, Hayashi T, Yamagami S	眼科	Determination of the size of the stripping area using trypan blue in Descemet's stripping only.	Can J Ophthalmol. 2022 Jul 6:S0008-4182(22)00187-9	Others
147	Hayashi T, Siebelmann S	眼科	Rescue Technique to Solve Postoperative Refractory Double Anterior Chamber in Deep Anterior Lamellar Keratoplasty.	Cornea41:374-378,2022	Case report
148	Hirota A, Shoji J, Inada N, et al.	眼科	Evaluation of Clinical Efficacy and Safety of Prolonged Treatment of Vernal and Atopic Keratoconjunctivitis Using Topical Tacrolimus.	Cornea41:23-30,2022	Others
149	Hayashi T, Iliasian RM, Matthaei M, et al.	眼科	Transferability of an Artificial Intelligence Algorithm Predicting Rebullings After Descemet Membrane Endothelial Keratoplasty.	Cornea. 2022 Apr 22.	Others
150	Hanaguri J, Yokota H, Kushiyama A, et al.	眼科	Beneficial Effect of Long-Term Administration of Supplement With Trapa Bispinosa Roxb. and Lutein on Retinal Neurovascular Coupling in Type 2 Diabetic Mice.	Front Physiol. 2022 Feb 24;13:788034.	Original Article
151	Hanaguri J, Yokota H, Kushiyama A, et al.	眼科	The Effect of Sodium-Dependent Glucose Cotransporter 2 Inhibitor Tofogliflozin on Neurovascular Coupling in the Retina in Type 2 Diabetic Mice.	Int J Mol Sci23:1362,2022	Original Article

152	Akiyama A, Yokota H, Aso H, et al.	眼科	Comparison of Postoperative Stability of Intraocular Lenses after Phacovitrectomy for Rhegmatogenous Retinal Detachment.	J Clin Med11:3438,2022	Original Article
153	Hanaguri J, Nagai N, Yokota H, et al.	眼科	Fenofibrate Nano-Eyedrops Ameliorate Retinal Blood Flow Dysregulation and Neurovascular Coupling in Type 2 Diabetic Mice.	Pharmaceutics14:384,2022	Original Article
154	Yokota H, Hayashi H, Hanaguri J, et al.	眼科	Effect of prorenin peptide vaccine on the early phase of diabetic retinopathy in a murine model of type 2 diabetes.	PLoS One17:e0262568,2022	Original Article
156	Shimizu T, Hayashi T, Ishida A, et al.	眼科	Evaluation of corneal nerves and dendritic cells by in vivo confocal microscopy after Descemet's membrane keratoplasty for bullous keratopathy.	Sci Rep12:6936,2022	Original Article
157	Yamagami S, Yokoo S	眼科	Role of Monocytes/Macrophages in the Etiology of Bullous Keratopathy After Argon Laser Iridotomy.	TTransl Vis Sci TechnoTransl Vis Sci Technol11:33.2022	Others

計157件

- (注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。
- 2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る。)
- 3 「発表者氏名」に関しては、英文で、筆頭著者を先頭に論文に記載された順に3名までを記載し、それ以上は、他、またはet al.とする。
- 4 「筆頭著者の所属」については、和文で、筆頭著者の特定機能病院における所属を記載すること。
- 5 「雑誌名・出版年月等」欄には、「雑誌名. 出版年月(原則雑誌掲載月とし、Epub ahead of printやin pressの掲載月は認めない); 巻数: 該当ページ」の形式で記載すること(出版がオンラインのみの場合は雑誌名、出版年月(オンライン掲載月)の後に(オンライン)と明記すること)。
- 記載例: Lancet. 2015 Dec; 386: 2367-9 / Lancet. 2015 Dec (オンライン)
- 6 「論文種別」欄には、Original Article、Case report、Review、Letter、Othersから一つ選択すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1	瀬在明, 田中正史, 奥村恭男	心臓血管外科	急性・慢性心不全診療ガイドラインー 2021年フォーカスアップデート版ー	日大医学雑誌. 2022 Apr;81(2):73-76	Review
2	長岡麻美, 伊崎聡志, 藤田英樹	皮膚科	頭部に日光角化症, 有棘細胞癌, 基底細胞癌を併発し, イミキモドクリーム外用で治療した1例.	臨床皮膚科 2022; 76(8): 623-628.	Case report
3	照井 正, 小林里実, 山本俊幸, 他	皮膚科	掌蹠膿疱症診療の手引き 2022.	日本皮膚科学会雑誌 2022; 132(9): 2055-2113.	Others
4	葉山惟大, 豊島翔太, 岡山吉道	皮膚科	【アレルギー病態におけるILC2の最新知見】ILC2とアトピー性皮膚炎.	アレルギーの臨床. 2023; 43(1): 18-21.	Review
5	葉山惟大	皮膚科	毛包閉塞性疾患を解決する ~にきびと化膿性汗腺炎の耳寄り情報~ 化膿性汗腺炎診療の手引き2020を理解する.	日本臨床皮膚科学会雑誌 2022; 39(3): 382-385.	Review
6	葉山惟大	皮膚科	よく使う日常治療薬の正しい使い方 特発性の蕁麻疹に対する治療薬の正しい使い方. まずは抗ヒスタミン薬!	レジデントノート 2022; 24(3): 521-524.	Review
7	葉山惟大	皮膚科	【エキスパートへの近道! 間違えやすい皮膚疾患の見極め】壊疽性膿皮症を見極める.	Monthly Book Derma 2022; 320: 256-262.	Review
8	葉山惟大	皮膚科	【病態から考える薬物療法】(第III章) 紅斑症・好中球関連皮膚疾患 化膿性汗腺炎.	皮膚科の臨床 2022; 64(5): 689-693.	Review

9	葉山惟大	皮膚科	【慢性蕁麻疹up-to-date】慢性特発性蕁麻疹に対するオマリズマブ治療とその機序.	臨床免疫・アレルギー科 2022; 78(3): 273-279.	Review
10	葉山惟大	皮膚科	新・皮膚科セミナーⅧ 炎症性皮膚疾患と抗体製剤 乾癬と化膿性肝腺炎の抗体製剤.	日本皮膚科学会雑誌 2022; 132(7): 1637-1643.	Review
11	葉山惟大	皮膚科	【まずはここから!皮膚科における抗菌薬の正しい使い方】非感染症 化膿性汗腺炎における抗菌薬治療.	Monthly Book Derma 2022; 325: 57-63.	Review
12	伊崎聡志, 藤田英樹	皮膚科	悪性黒色腫のトピックス.	日大医学雑誌 2022; 81(6): 329-333.	Review
13	藤田英樹	皮膚科	【2022年なにあった?】Ⅲ. Catch Up! 新薬・新規効能・新剤形 6. TOPICS: 乾癬治療の現在とこれから.	薬局 2022.; 73(13): 3065-3070.	Review
14	葉山惟大	皮膚科	【蕁麻疹・血管性浮腫】蕁麻疹の治療 分子標的薬.	皮膚科 2023; 3(2): 180-186.	Review
15	奥田 航、石井和嘉子、山瀬聡一、他	小児科	尿中薬物検査が診断の契機となった急性薬物中毒の被虐待児の1例.	日大医学雑誌 81(6): 373-376、2022	Case report
16	川口忠恭, 稲毛康司	小児科	腎静脈血栓塞栓症と肺血栓塞栓症を発症したLp(a)増加を伴う小児全身性エリテマトーデスの女子例.	小児リウマチ 12(1): 70-74, 2022	Case report

17	森岡一朗	小児科	新生児領域における新型コロナウイルス感染対策. 日本周産期.	新生児医学会雑誌:58 (2):226-232, 2022	Review
18	森岡一朗	小児科	症候性先天性サイトメガロウイルス感染症を対象とした抗ウイルス薬治療の医師主導治験.	臨床とウイルス 50(4): 203-205, 2022	Review
19	森岡一朗	小児科	新型コロナウイルス感染症(COVID-19)と新生児.	糖尿病と妊娠 22(1): s20-22, 2022	Review
20	森岡一朗	小児科	小児 RS ウイルス呼吸器感染症診療ガイドライン2021をよみとく.	小児科 63(8):817-824, 2022	Review
21	長野伸彦	小児科	Developmental Origins of Health and Disease-早産・低出生体重児と糖尿病-.	日大医学雑誌 81(4): 237-241, 2022	Review
22	森岡一朗	小児科	第9章 新生児疾患 感染症, 消化器疾患, 血液疾患, 代謝異常症, その他.	標準小児科学第9版(原寿郎監修, 高橋孝雄, 細井 創, 斎藤明彦編集). p.149-167, 医学書院, 東京, 2022	Others
23	森岡一朗	小児科	【新生児学のControversy】早産児の黄疸管理にアンバウンドビリルビン測定は必要か?	小児科診療Controversy (金子一成監修, 森岡一朗編集). p.5-9, 中外医学社, 東京, 2022	Others
24	谷ヶ崎 博	小児科	自己免疫性溶血性貧血、その他の溶血性貧血.	小児血液・腫瘍学改訂第2版(日本小児血液・がん学会編集). p.390-397, 診断と治療社, 東京, 2022	Others

25	長野伸彦	小児科	糖尿病母体から出生した新生児.	小児内分泌疾患の治療 (日本小児内分泌学会編集). p.251-253, 診断と治療社, 東京, 2022	Others
26	Nishimaki H, Nakanishi Y, Yagasaki H, et al.	病理診断科	Multiple Immunofluorescence Imaging Analysis Reveals Differential Expression of Disialogangliosides GD3 and GD2 in Neuroblastomas	Pediatric and Developmental Pathology 2022 Mar./Apr. 25(2):141-154	Original Article
27	Ohni S, Yamaguchi H, Hirofumi Y, et al.	病理診断科	Direct molecular evidence for both multicentric and monoclonal carcinogenesis followed by transdifferentiation from hepatocellular carcinoma to cholangiocarcinoma in a case of metachronous liver cancer	Oncology Letters. 2022 Jan. 23(1): 22	Original Article
28	Takada K, Hao H, et al.	病理診断科	Restriction of SARS- CoV-2 replication in the human placenta.	Placenta, 2022 Sep, 127: 73- 76	Original Article
29	Hashimoto N, Hao H, et al.	病理診断科	Autopsy and Cardiac Magnetic Resonance Image Case of Bevacizumab-Related Cardiomyopathy.	Journal of Cardiovascular Development Disease 2022 Dis.. 2089(7)	Case report
30	Iwasaki H,Yamamoto M,Sato H,et al.	麻酔科	A Comparison Between the Adductor Pollicis Muscle Using TOF-Watch SX and the Abductor Digiti Minimi Muscle Using TetraGraph in Rocuronium- Induced Neuromuscular Block: A Prospective Observational Study	Anesth Analg 2022;135(2):370-5	Original Article
31	Sato H,Iwasaki H,Doshu- Kajiura A,et al	麻酔科	Comparison of two electromyography-based neuromuscular monitors, AF- 201P and TetraGraph, in rocuronium-induced neuromuscular block: A prospective comparative study	Anaesth Crit Care Pain Med . 2022 Dec;41(6):101145.	Original Article
32	Furuya T,Hirose N,Sato H,et al	麻酔科	Preanesthetic ultrasonography assessment of inferior vena cava diameter in the supine position, left lateral tilt position, and with the left uterine displacement maneuver in full-term pregnant women: A randomized cross-over design study	J Obstet Gynaecol Res . 2023 Mar;49(3):904-911.	Original Article

計32件

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 記載方法は、前項の「高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文」の記載方法に準じること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	☒ 有・無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	☒ 有・無
・ 手順書の主な内容 臨床研究倫理審査委員会標準業務手順書 用語の定義，倫理審査委員会の設置等，倫理審査委員会の役割・責務等，倫理審査委員会事務局，倫理審査委員会の運営，記録保管責任者など	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年12回

- (注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。
2 前年度の実績を記載すること。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	☒ 有・無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	☒ 有・無
・ 規定の主な内容 目的，委員会の設置・構成，申告・審査・勧告等，所管等	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年2回

- (注) 前年度の実績を記載すること。

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年6回
・ 研修の主な内容 臨床研究倫理審査委員会委員講習（6回）	

- (注) 前年度の実績を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

高度医療に対する研修を実行するため、医学部の学系・分野と協力しながら、専門医取得のための到達目標の達成に必要な内容を踏まえた後期臨床研修プログラムを各診療科で作成している。

(注) 上記の研修内容は医師法及び歯科医師法の規定による臨床研修を終了した医師及び歯科医師に対する専門的な研修について記載すること。

2 研修の実績

上記研修を受けた医師数	183 人
-------------	-------

(注) 前年度の研修を受けた医師の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
高山 忠輝	総合科	部長	33 年	
権 寧博	呼吸器内科	部長	30 年	
中村 英樹	リウマチ・膠原病内科	部長	31 年	
三浦 勝浩	血液・腫瘍内科	部長	22 年	
阿部 雅紀	腎臓・高血圧・内分泌内科	部長	26 年	
木暮 宏史	消化器・肝臓内科	部長	22 年	
石原 寿光	糖尿病・代謝内科	部長	35 年	
中嶋 秀人	脳神経内科	部長	35 年	
奥村 恭男	循環器内科	部長	24 年	
丸岡秀一郎	心療内科	部長	27 年	
鈴木 正泰	精神神経科	部長	21 年	
森岡 一朗	小児科 新生児科	部長	25 年	
藤田 英樹	皮膚科	部長	24 年	
岡村 行泰	消化器外科	部長	23 年	
田中 正史	心臓血管外科	部長	27 年	
櫻井 裕幸	呼吸器外科	部長	29 年	
上原秀一郎	小児外科	部長	26 年	
多田敬一郎	乳腺・内分泌外科	部長	31 年	
副島 一孝	形成外科	部長	35 年	
吉野 篤緒	脳神経外科	部長	37 年	
中西 一義	整形外科	部長	29 年	

新見 昌央	リハビリテーション科	部長	14 年
川名 敬	産婦人科	部長	30 年
高橋 悟	泌尿器科	部長	38 年
山上 聡	眼科	部長	35 年
大島 猛史	耳鼻咽喉・頭頸部外科	部長	37 年
岡田 真広	放射線治療科 放射線診断科	部長	27 年
鈴木 孝浩	麻酔科	部長	33 年
中山 智祥	臨床検査医学科	部長	35 年
増田しのぶ	病理診断科	部長	38 年
木下 浩作	救命救急科	部長	36 年
北野 尚孝	歯科口腔外科	部長	23 年

- (注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。
- (注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。
- (注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）
<p>・研修の主な内容</p> <p>① 医療安全研修会（医療安全ワークショップ）</p> <p>② セーフティマネジャー講習会</p> <p>「令和3年度活動報告」</p> <p>「院内転倒における頭部外傷の特徴と課題」</p> <p>・研修の期間・実施回数</p> <p>① 令和4年12月22日（金） 年1回</p> <p>② 令和4年6月9日（木）～同年7月31日（月）・年1回実施</p> <p>・研修の参加人数</p> <p>① 16名</p> <p>② 262名</p>
② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）
<p>・研修の主な内容</p> <p>個人情報保護と守秘義務について（e-ラーニング研修）</p> <p>・研修の期間・実施回数</p> <p>令和4年6月9日（木）～同年7月31日（月）・年1回実施</p> <p>・研修の参加人数</p> <p>2,779名</p>
③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況
<p>・研修の主な内容</p> <p>該当なし</p>

・研修の期間・実施回数

・研修の参加人数

(注) 1 高度の医療に関する研修について、前年度実績を記載すること。

(注) 2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。

(様式第 5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画	2. 現状
管理責任者氏名	病院長 高橋悟	
管理担当者氏名	事務長 安中太 庶務課長 田村剛史, 会計課長 菲澤雅幸, 資材課長 石橋慶一, 医事課長 川原浩貴, 病歴課長 工藤正幸, 医療情報課長 藤井教智, 医薬品安全管理者 福島栄, 医療機器安全管理責任者 岡本一彦, 医学部庶務課長 小林勝幸	

		保管場所	管理方法	
診療に関する諸記録	規則第二十一条の三第二項に掲げる事項	病院日誌	庶務課	
		各科診療日誌	病歴課, 医療情報課	
		処方せん	病歴課, 医療情報課	
		手術記録	病歴課, 医療情報課	
		看護記録	病歴課, 医療情報課	
		検査所見記録	病歴課, 医療情報課	
		エックス線写真	病歴課, 医療情報課	
		紹介状	病歴課, 医療情報課	
		退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書	病歴課, 医療情報課	
			日別, 年度別, 種類別に管理している。 紙媒体の診療録については, 「日本大学医学部附属板橋病院・病歴管理内規」において, 保管場所は「施錠された病院内倉庫・閲覧室, 診療録保管専門業者による外部倉庫その他医学部内指定場所で保管する」とし, 貸出閲覧に関しては申請書にて院内及び医局のみの貸出閲覧にて期間を定め, 定められた保管場所以外に持ち出さないこと」としている。 また, 官公庁からの依頼については, 病院長の許可による。	
病院の管理及び運営に関する諸記録	掲げる事項	規則第二十一条の三第三項に	従業者数を明らかにする帳簿	医学部庶務課, 庶務課
		高度の医療の提供の実績	医事課, 当該診療科	
		高度の医療技術の開発及び評価の実績	医事課, 当該診療科	
		高度の医療の研修の実績	医学部庶務課	
		閲覧実績	医事課, 病歴課, 庶務課	
		紹介患者に対する医療提供の実績	医事課, 当該診療科	
	入院患者数, 外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	医事課, 薬剤部, 庶務課		
掲げる事項	規則第一条の十一第一項	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療安全管理室	
	医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療安全管理室, 庶務課		
	医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療安全管理室		
	医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療安全管理室		

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一第二項第一号から第三号までに掲げる事項	院内感染対策のための指針の策定状況	感染予防対策室
		院内感染対策のための委員会の開催状況	感染予防対策室，庶務課
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	感染予防対策室
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	感染予防対策室
		医薬品安全管理責任者の配置状況	薬剤部，医療安全管理室，庶務課，医療情報課
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部
		医療機器安全管理責任者の配置状況	臨床工学技士室，中央放射線部，庶務課
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	臨床工学技士室，中央放射線部
		医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	臨床工学技士室，中央放射線部
		医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	臨床工学技士室，中央放射線部

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第九条の二十の二第二項第一号から第十三号まで及び第十五条の四各号に掲げる事項	医療安全管理責任者の配置状況	医療安全管理室，庶務課
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	感染予防対策室，庶務課
		医薬品安全管理責任者の業務実施状況	薬剤部
		医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	医事課，庶務課
		診療録等の管理に関する責任者の選任状況	病歴課，庶務課
		医療安全管理部門の設置状況	医療安全管理室，庶務課
		高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	執行部会，高難度新規医療技術担当部門
		未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	執行部会，薬剤部
		監査委員会の設置状況	医療安全管理室，庶務課
		入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況	医療安全管理室
		他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況	医療安全管理室，感染予防対策室，庶務課
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医療安全管理室，医事課，庶務課
		医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況	医療安全管理室，医事課
		職員研修の実施状況	医療安全管理室，感染予防対策室，庶務課，医療情報課
		管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況	医療安全管理室
		管理者が有する権限に関する状況	法人本部，医学部庶務課，庶務課
管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況	法人本部，医学部庶務課，庶務課		
開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の整備状況	法人本部，医学部庶務課，庶務課		

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画	2. 現状
閲覧責任者氏名	事務長 安中太	
閲覧担当者氏名	庶務課長 田村剛史, 会計課長 菫澤雅幸, 資材課長 石橋慶一, 医事課長 川原浩貴, 病歴課長 工藤正幸, 医療情報課長 藤井教智, 医学部庶務課長 小林勝幸	
閲覧の求めに応じる場所	会議室	
閲覧の手続の概要 病院長宛に依頼文書・照会文書を送付いただき, その諾否を執行部会議で判断する。		

(注)既に医療法施行規則第9条の20第5号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数		延	4	件
閲覧者別	医師	延	0	件
	歯科医師	延	0	件
	国	延	1	件
	地方公共団体	延	3	件

(注)特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

規則第1条の11第1項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有・無
<p>・ 指針の主な内容：</p> <p>日本大学医学部附属板橋病院は患者の生命の尊厳と安全を確保し，常に高度で先進的な医療を提供する特定機能病院として，安全管理体制の強化を図るため，平成12年3月に医療事故防止マニュアルを作成し，現在まで以下の指針及び完全管理体制を確保するための委員会並びに医療事故発生時の対応方法をマニュアル化し整備した。</p> <p>① 医療法に基づいた医療安全管理に関する基本方針</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 医療安全管理指針（基本理念及び安全管理指針） （平成12年3月制定，令和4年12月改定） <p>② 安全管理組織運営</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 医療安全管理室運営規則（平成16年1月制定，令和4年9月改定） ・ セーフティマネジャーに関する規則 （平成16年1月制定，平成29年4月改定） ・ 医療安全ワーキンググループ設置規約 （平成18年4月制定，平成26年4月改定） ・ セーフティマネジャーによる事例検討に関する規約 （平成25年3月制定） <p>③ 安全管理体制の確保のための委員会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 医療安全管理委員会規則（平成12年5月制定，令和4年12月改定） ・ 特別症例検討委員会規則（平成12年5月制定，平成27年6月改定） ・ 医療事故調査委員会要項（平成28年2月制定） <p>④ 医療事故発生時の対応方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ インシデント・アクシデント，不具合事象（合併症）報告運用規則 （平成12年5月制定，令和5年4月改定） ・ インシデント・アクシデント，不具合事象（合併症）報告ルート （平成12年5月制定，令和5年4月改定） ・ 重大医療事故報告ルートフローチャート （平成12年8月制定，平成27年8月改定） <p>⑤ 患者からの相談に応じる体制</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 患者相談窓口運用要綱（平成15年10月制定，平成25年8月改定） ・ 患者相談窓口フローチャート（平成15年10月制定，平成25年8月改定） <p>⑥ 患者への適正な説明・内部通報窓口の設置</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ インフォームドコンセントに関する内規 （平成28年9月制定，令和5年5月改定） ・ インフォームドコンセントマニュアル （平成28年9月制定，令和5年5月改定） ・ 内部通報者保護に関する内規（平成28年9月制定，令和4年7月改訂） 	
② 医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況	
<p>・ 設置の有無（有・無）</p> <p>・ 開催状況：年12回</p> <p>・ 活動の主な内容：副病院長（医療安全管理責任者）を委員長とする医療安全管理委員会を毎月1回定例で開催している。医療安全管理委員会は，医療安全管理者，看護部門，中央部門（薬剤部，中央放射線部，臨床検査部），事務部門等から選出された委員（セーフティマネジャー等）により構成されている。本院における医療に係る安全管理の根幹を決定し，医療事故防止対策の検討及び医療安全の推進を図っている。また，年間2回の医</p>	

療安全講習会の企画・運営を行っている。同委員会は薬剤管理委員会と医療機器・放射線機器管理委員会、医療放射線安全管理委員会を統括し、連携を図ると共に下部組織として各部門の主任以上をセーフティマネジャーに任命し、各部署における医療安全対策を推進している。	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年2回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の内容（すべて）：医療安全管理指針に基づき、安全管理体制確保と医療事故を未然に防ぐために以下の研修を実施 <ul style="list-style-type: none"> ① 令和4年6月～令和4年7月 第1回医療安全講習会 「日本大学医学部附属板橋病院の理念・基本方針」 「2021年度インシデントレポート報告と現状からの注意喚起」他 ② 令和4年11月～令和4年12月 第2回医療安全講習会 「患者の権利」「RRSの要請記録について」他 	
④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療機関内における事故報告等の整備（☒・無） ・ その他の改善のための方策の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> ① インシデント・アクシデントレポートにより、速やかに報告を行う体制を整備している。 ② 平成18年度からオンライン化を図り、平成26年度から電子カルテの導入によるシステムの最適化を図った。 ③ 提出されたインシデントレポート、外部のレポート、現場からの問題提起、インターネットや研修会等で事例を収集・把握し情報を得ている。収集した情報を踏まえて医療安全管理室は報告された内容や事例によっては当事者立会いによる現場での聞き取りや状況確認を行い、検証を要する事件事例については、セーフティマネジャー事例検討会に付託し詳細な原因究明分析を行い改善策の検討を行っている。 ④ 24時間いつでも提出可能にするために、医療安全管理室にポストを設置している。 ⑤ 医療安全管理室員の連携（情報共有）を図るために、毎週1回医療安全管理室連絡会議を開催し、情報の共有化を図り、分析・予防対策等の検討を行っている。 ⑥ 専従医療安全管理者等が病棟ラウンドを行い、報告内容の確認及びセーフティマネジャーとの連携を図っている。 ⑦ 「ヒヤリ・ハット通信」「医療安全注意報」等の発行時には、回覧を確認したことを証明してもらうため、確認表を添付し、そこにサインさせ、医療安全管理室で確認表を収集・管理している。 ⑧ 可及的速やかに検討が必要な事例が発生した場合、当該部署の医師や看護師ならびにそれに関連する部署の者を招聘し「特別症例検討委員会」を開催し、事例の分析、再発防止策を検討・実施している。 ⑨ 医療安全管理室で全死亡症例を把握している。電子カルテ等の内容を把握し、医療安全管理室連絡会議や医療安全管理委員会で検証を行っている。重大事例や早急に改善策が必要となる事例については、該当事例について、特別症例検討委員会で検討を行い、改善策を立案する 	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第1号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有・無
<ul style="list-style-type: none"> ・ 指針の主な内容： 基本理念，基本方針，専従者の配置，感染防止対策委員会の設置，鋭利な器材の取り扱い，職員の研修，感染症発生時の報告，感染症発生時の対策，閲覧について，連絡先，その他 	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年 12 回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 活動の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> － 届け出感染症および指定感染症(新型コロナウイルス感染症など)の発生状況の把握と報告 － 針刺し切創皮膚粘膜曝露件数の報告 － 抗MRSA薬，広域抗菌薬の使用状況および適正使用の報告 － 菌検出状況の報告 － 感染防止対策講習会の企画・開催および参加状況の把握 － 感染防止対策マニュアルの改訂 － 標準予防策の手指衛生行動の評価 － 感染防止対策加算に関わる活動報告 	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 2 回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の内容（すべて）： <ol style="list-style-type: none"> 1) 2022年度前期（2022年6月9日から7月31日）全職員対象 <ul style="list-style-type: none"> ・ 針刺し・切創の予防 ・ 生体に対する消毒薬の適正使用 ・ 当院のアンチバイオグラムについて （新型コロナウイルス感染症に関する）生活様式について 2) 2022年度後期（2022年11月10日から12月31日）全職員対象 <ul style="list-style-type: none"> ・ 求められている感染防止対策 ・ 薬剤耐性アクシヨンプランと急性気道感染症 ・ インフルエンザ感染対策全般 	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 病院における発生状況の報告等の整備 （ 有・無 ） ・ その他の改善のための方策の主な内容： <ol style="list-style-type: none"> 1) 感染症発生時の報告体制 <ul style="list-style-type: none"> ・ 感染症発生時，細菌検査室から主治医への報告と同時に感染予防対策室の専従者へ報告があり，専従者は現場へ直ちに向かい，情報の共有・感染対策の強化を行っている。 ・ 感染症法による感染症の届出は電子カルテに収載し，速やかに報告書の作成・提出ができるようにしている。 2) ICT, 感染予防対策室によるAST活動, 院内ラウンド <ul style="list-style-type: none"> ・ ICTメンバーを全病棟・外来・各部門から選出し配置している。 ・ ICTは自部署を中心とした院内ラウンドを実施している。 ・ 感染予防対策室専従者・専任者はICTラウンドとは別に院内横断的にラウンドを実施している。 ・ 医師，看護師，薬剤師，臨床検査技師による抗菌薬適正使用検討会を週3回実施し，適正使用の向上，耐性菌感染症対策の検討を行っている。 ・ 病棟やステーション，汚物室などの環境や標準予防策，経路別予防策の遵守状況をICTラウンドで検証している。 3) 手指衛生の量的・質的向上に向けた取り組み <ul style="list-style-type: none"> ・ 病棟や外来，薬剤部，検査部，リハビリテーション部，放射線部，臨床工学部の各部署において，手指衛生質評価を毎月実施している。 ・ 手指消毒剤払い出し量および各部署での使用量実績に基づく使用量サーベイランスを実施している。 ・ 質評価と使用量サーベイランスの結果は手指衛生遵守の向上のために各現場にフィードバックしている。 	

4) 院内感染サーベイランス

- ・カテーテル関連尿路感染症, 中心静脈カテーテル関連血流感染症, 人工呼吸器関連肺炎, 手術部位感染の各種サーベイランスを実施している。
- ・通年にわたり、耐性菌, 新型コロナウイルス感染症, インフルエンザ, 感染性胃腸炎のサーベイランスを実施している。

5) 地域連携

- ・地域の医療施設, 地域医師会と定期的に連携カンファレンスを実施している。

6) その他

- ・清掃業者, 施設課の定期カンファレンスに専従者が参加し, さらに清掃ラウンド(1回/月)を実施, 病院環境の清潔維持に繋げている。

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第2号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品安全管理責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 2 回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> 2022/6：「CVCのフィルター等の運用について」 2022/11：「高濃度注射用カリウム製剤の運用について」 	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 手順書の作成 (有・無) ・ 手順書の内訳に基づく業務の主な内容： <p>「医療安全管理委員会」は副病院長(医療安全管理責任者)を委員長として、医療安全管理者診療部門、看護部門、中央部門(薬剤部、中央放射線部、臨床検査部)、事務部門等から選出された委員(セーフティマネジャー等)により構成されている。定例で毎月1回委員会を開催し、当病院における医療に係る安全管理の根幹を決定し、医療事故防止対策の検討及び医療安全の推進を図っている。また、年間2回の医療安全講習会の企画・運営を行っている。</p> <p>同委員会は薬剤管理委員会と医療機器・放射線機器管理委員会を統括し、連携を図ると共に下部組織として各部門の主任以上をセーフティマネジャーに任命し、各部署において医療安全対策を推進している。</p> 	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医薬品に係る情報の収集の整備 (有・無) ・ 未承認等の医薬品の具体的な使用事例(あれば)：2022年度事例なし ・ その他の改善のための方策の主な内容： <ol style="list-style-type: none"> ① インシデント・アクシデントレポートにより、速やかに報告を行う体制を整備している。平成18年度からオンライン化を図り、平成26年度から電子カルテの導入によるシステムの最適化を図った。 ② 提出されたインシデントレポート、外部のレポート、現場からの問題提起、インターネットやメディアアクセスなどからの事例を収集・把握し情報を得ている。収集した情報を踏まえて医療安全管理室は報告された内容や事例によっては当事者立会いによる現場での聞き取りや状況確認を行い、検証を要する事故事例については、セーフティマネジャー事例検討会に付託し詳細な原因究明分析を行い改善策の検討を行っている。 ③ 24時間いつでも提出可能にするために、医療安全管理室にポストを設置している。 ④ 医療安全管理室員の連携(情報共有)を図るために、毎週1回医療安全管理室連絡会議を開催し、情報の共有化を図り、分析・予防対策等の検討を行っている。 ⑤ 専従医療安全管理者等が病棟ラウンドを行い、報告内容の確認及びセーフティマネジャーとの連携を図っている。 ⑥ 「ヒヤリ・ハット通信」「医療安全注意報」等の発行時には、回覧を確認したことを証明してもらうため、確認表を添付し、そこにサインさせ、医療安全管理室で確認表を収集・管理している。 ⑦ 可及的速やかに検討が必要な事例が発生した場合、当該部署の医師や看護師ならびにそれに関連する部署の者を招聘し「特別症例検討委員会」を開催し、今後再発防止策を検討・実施している。 ⑧ 医療安全管理室で全死亡症例を把握している。電子カルテ等の内容を把握し、医療安全管理室連絡会議や医療安全管理委員会で検証を行っている。重大事例や早急に改善策が必要となる事例については、該当事例について、特別症例検討委員会で検討を行い、改善策を立案する。 	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第3号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器安全管理責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年 55 回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> ・ 医療機器の有用性・安全性に関する事項 ・ 医療機器の使用方法に関する事項 ・ 医療機器の保守点検に関する事項 ・ 医療機器の不具合が発生した場合の対応に関する事項 ・ 医療機器の使用に関して特に法令上遵守すべき事項 ・ 医療機器の使用方法に関わる放射線治療のリスクマネジメント ・ 医療機器の非常時の処置方法 ・ 新規医療機器導入時の研修 ・ インシデント発生時の再発予防に関する事項など ・ 研修の実施方法： <ul style="list-style-type: none"> ・ e-ラーニング ・ 集合教育 ・ 実習研修 <p>効果測定については、研修終了後に確認テストを行っている。e-ラーニングでの研修では、確認テストで100%正解しなければ受講修了とならない。確認テスト実施後、正誤とともに解説が表示される。 集合教育や実習研修に関しては、研修終了後に確認テストを行い、間違えた個所についてその場で解説を実施する。 未受講者については、再受講の要請を行う。また、資料配布などを行い、アンケートとともに確認テストを行い、終了後テストの解説を配布するなどとした。</p>	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療機器に係る計画の策定 (有・無) ・ 機器ごとの保守点検の主な内容：医療機器ごとに保守点検の計画・実施表を作成し、3か月毎に見直し、医療機器・放射線機器委員会にて承認を得ている。機器ごとの保守点検については、添付文書、取扱説明書等に記載してある。メーカー推奨の点検方法を採用し、点検している。また、メーカーが行う保守点検については、終了後、使用前点検を再度行い、正常作動を確認している。 <p>○医療機器 定期点検：人工心肺装置、補助循環装置、人工呼吸器、保育器、除細動器、血液浄化装置、輸液ポンプなどの一部の機器については、臨床工学技士が、マニュアルに沿って点検を行う。その他の補助循環装置や電気メス、麻酔器などについては、メーカーに依頼している。</p> <p>日常点検：始業点検・使用中・使用后・修理後の点検の実施、および記録を臨床工学技士が行っている。医療機器ごとにマニュアルに沿った形で、始業点検を行っている。特に生命維持管理装置（人工呼吸器、補助循環装置、血液浄化装置）の使用中心点検は、チェックリスト等を用い、機器の状態、患者の状況、指示通り治療が行われているかなどを、臨床工学技士が巡視し、チェックリストなどを用いて確認している</p> <p>○放射線機器 定期点検：各機器のマニュアルに沿った期間・内容で行っている。 高エネルギー放射線発生装置：4回/年実施、メーカーに依頼 診療用放射線照射装置（RALS装置）：2回/年実施、メーカーに依頼 CTエックス線装置：機種により、2回/年・4回/年実施、メーカーに依頼 MRI装置：機種により、2回/年・4回/年実施、メーカーに依頼</p> <p>日常点検：始業点検・使用中・使用后・修理後の点検の実施、および記録を診療放射線技師が行っている。医療機器ごとにマニュアルに沿った形で、始業点検・終業点検を</p>	

行っている。高エネルギー放射線発生装置であるライナック装置の始業点検については、簡易型線量計を用いて出力測定を行い、各エネルギーの出力誤差が許容範囲内であるかチェックを行っている。

④ 医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集
その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況

- ・ 医療機器に係る情報の収集の整備 (有・無)
- ・ 未承認等の医療機器の具体的な使用事例(あれば)：なし

- ・ その他の改善のための方策の主な内容：
 - 院内で運用中の医療機器について
 - ・ PMDAやメーカーから情報を得ている。
 - ・ 得られた情報は、医療機器・放射線機器管理委員会にて報告すると共に、必要に応じて医療安全管理委員会でも報告を行っている。
 - ・ 医療機器の使用方法等に関する注意や情報伝達は、臨床工学技士・診療放射線技師より行っている。さらに重要度があがる場合や、インシデントが関係しているような、全員に確実な周知を行うべきものについては、医療安全管理室専従スタッフと相談し、医療安全管理室より「医療安全注意報」や「CEのお知らせ」として周知している。
 - ・ 情報の周知には、電子カルテ、文書の配布、研修会などを利用している。
 - ・ メーカーからの安全使用に関する情報通知内容を関係職員に回覧し、情報の共有化を図っている。また、安全情報をファイルし、適宜閲覧可能としている。
 - ・ メーカーからの改修・注意事項に則り適宜改修を行っている。
 - ・ 治療計画装置の安全使用を図るために、保守契約項目にソフトのバージョンアップを含め常に最新のソフトを使用している。
 - 未承認機器について
各部署に常駐するCEスタッフが、医師と連携を取りながら治療を行っているため、未承認の医療機器などが使用される際には情報提供が行われる。
院外から借用する機器は、原則、使用部署から資材課にレンタルもしくはデモ申請が提出されることになっており、院内の委員会に情報が上げられる。また、未承認等の医療機器の使用については、臨床研究センターに情報が提供され、委員会を発足、検討することが院内の規則となっており、医療安全管理室から周知されている。
 - 前年度実績
 - ・ 医療機器・放射線機器管理委員会にて、医療機器・放射線機器に関連するインシデントについて236件の事例報告を行い、原因検索や対応の検討を行った。
 - ・ シリンジポンプの閉塞アラーム発生時のアラーム対応について、内圧緩和が発生することでアラーム対応が適切に実施されない事例が発生したため、紙面による注意喚起を実施した。
 - ・ 一元管理に伴い、クラスⅠ・Ⅱにあたる機器の始業点検や使用中点検などの日常点検の方法について統一し、クラス分類についても具体的な機器名を記載し、漏れなく点検が行われるよう周知した。さらに、実際に点検が行われているかについて臨床工学技士の方で確認するシステムを構築し、院内の医療機器が一元的に管理されるようなシステムを構築した。
 - ・ 患者の移送に伴いシリンジポンプ交換時にルートがクランプされないまま、シリンジがポンプから外れた。サイフォニング現象による薬液過剰注入は発生しなかったが危険な事例であったため、サイフォニング現象とその注意点について紙面にて周知した。

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第9条の20の2第1項第1号から第13号の二に掲げる事項の実施状況

① 医療安全管理責任者の配置状況	☑・無
<p>・責任者の資格 (☑医師・歯科医師)</p> <p>・医療安全管理責任者による医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括状況</p> <p>令和5年4月1日付け副病院長（管理担当）を医療安全管理責任者として配置し、医療安全管理室長を兼務している。医療安全管理責任者は病院の医療安全管理全般を統括し、医療安全管理委員会の委員長を務めると共に、薬剤管理委員会（委員長：医薬品安全管理責任者）及び医療機器・放射線機器管理委員会（委員長：医療機器安全管理責任者）から各委員会で討議された内容についての報告を受け、適宜監督・指導を行い、適正な医療安全管理体制を構築している。</p>	
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	☑ (17名) ・無
<p>③ 医薬品安全管理責任者の業務実施状況</p> <p>・医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況</p> <p>院内における医薬品の投薬及び注射の状況（使用患者数，使用量，投与日数等を含む）を把握し、定期的な院内採用薬品の適正化に努め、医薬品・家庭用品及び農薬等の中毒情報等の収集・評価・加工・提供・整理・保管といった一連の業務を行う。また、医薬品等による副作用情報を入手した場合、詳細に情報を収集するとともに、関係製薬企業と情報を共有し、必要に応じ厚生労働省へ報告する。</p> <p>緊急安全性情報および安全性速報等迅速な対応が必要な情報を入手した場合、各部門、各職種へ迅速な提供を行い、病院全体へ周知するとともに、電子カルテ情報から該当医薬品の使用患者と処方医師を特定し、発出された緊急安全性情報について当該患者の担当医師へ周知する。重要度に応じて、さらに周知を徹底するため、内容確認表に署名（サイン）をもらい、回収する。</p> <p>・未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況</p> <p>未承認等の医薬品に関する使用実態を把握し、医療安全管理責任者及び病院長に報告し明らかに不適切な適応外・禁忌使用を防ぐと共に医療従事者間の情報共有を図る。</p> <p>・担当者の指名の有無 (☑・無)</p> <p>・担当者の所属・職種：</p> <p>(所属：薬剤部医薬品情報室 ， 職種 薬剤師) (所属： ， 職種)</p> <p>(所属：医療安全管理室 ， 職種薬剤師) (所属： ， 職種)</p> <p>(所属： ， 職種) (所属： ， 職種)</p> <p>(所属： ， 職種) (所属： ， 職種)</p>	

④ 医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	☒ 有・無
<p>・医療の担い手が説明を行う際の同席者、標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する規程の作成の有無 (☒有・無)</p> <p>・説明等の実施に必要な方法に関する規程に定められた事項の遵守状況の確認、及び指導の主な内容 IC責任者が確認の結果、適切でない事例を認めた場合は、マニュアルに従い実施するよう指導を行うとともに、該当事例を通じて病院各部署に注意喚起を行い、適宜、院内通知等により、適正な説明の実施と説明を実施した際の様子を適正に記載するよう、啓蒙に努めている。</p>	

⑤ 診療録等の管理に関する責任者の選任状況	☒ 有・無
<p>・診療録等の記載内容の確認、及び指導の主な内容： 診療録責任者が診療録等の記載内容が十分でない事例を認めた際は、診療録記載に関するマニュアルに基づき記載するよう必要な指導を行うとともに、該当事例を通じて病院各部署に注意喚起を行い、適正な記載の実施について教育している。</p>	

⑥ 医療安全管理部門の設置状況	☒ 有・無
<p>・所属職員：専従（7）名、専任（ ）名、兼任（9）名 うち医師：専従（1）名、専任（ ）名、兼任（3）名 うち薬剤師：専従（1）名、専任（ ）名、兼任（1）名 うち看護師：専従（2）名、専任（ ）名、兼任（2）名</p> <p>（注）報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること</p> <p>・活動の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 医療安全に係る関係部署への連絡調整 ② 医療事故等の原因究明の実施確認及び指導 ③ 医療事故発生時における、患者・家族への説明等の対応状況の確認及び指導 ④ 医療事故等に関する診療録・看護記録等の記載の確認及び指導 ⑤ 医療安全研修会の運営、実施内容の記録 ⑥ 全死亡患者報告受領及び医療安全に係る診療状況調査・検証と管理者への報告 ⑦ 医療事故防止マニュアルの職員への周知及び評価 ⑧ 患者相談窓口の相談情報の把握及び医療安全対策への活用 ⑨ 医療安全管理委員会の資料・議事録の作成及び保存、その他医療安全管理委員会の庶務に関すること ⑩ ヒヤリ・ハット通信及び医療安全注意報の発行、職員への周知及び評価 ⑪ その他医療安全対策の推進 ⑫ 診療状況（コードブルー発生件数、RRS発生件数、内視鏡治療合併症発生率、術後死亡（30日以内）件数、手術における血栓予防対策、疑義照会件数、CVC合併症発生件数）のモニタリング <p>※ 平成二八年改正省令附則第四条第一項及び第二項の規定の適用を受ける場合には、専任の医療に</p>	

係る安全管理を行う者が基準を満たしていることについて説明すること。
※ 医療安全管理委員会において定める医療安全に資する診療内容及び従事者の医療安全の認識についての平時からのモニタリングの具体例についても記載すること。

⑦ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況

- ・前年度の高難度新規医療技術を用いた医療の申請件数（ 6 件）、及び許可件数（ 6 件）
- ・高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無（ ・無 ）
- ・高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（ ・無 ）
- ・活動の主な内容：
「高難度新規医療技術を用いた医療の提供に関する業務マニュアル」を適宜見直し、改訂する。担当部門長は「高難度新規医療技術評価委員会」を開催し、その適否を評価するとともに、当該高難度新規医療技術が適正に提供されていることを、継続的に確認する。
- ・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（ ・無 ）
- ・高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無（ ・無 ）

⑧ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況

- ・前年度の未承認新規医薬品等を用いた医療の申請件数（0 件）、及び許可件数（0 件）
- ・未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置の有無（ ・無 ）
- ・未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び未承認新規医薬品等の使用条件を定め使用の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（ ・無 ）
- ・活動の主な内容：
未承認新規医薬品等を用いた医療の提供に関する業務マニュアル」を適宜見直し、改訂する。
- ・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（ ・無 ）
- ・未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無（ ・無 ）

⑨ 入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況

- ・入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況：年 770 件
- ・上記に掲げる場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の事実及び発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況：年 188 件

・上記に関する医療安全管理委員会の活動の主な内容

死亡診断書の有無，部署，報告者，報告日時，患者病歴番号の報告を義務化し，医療安全管理者や担当医師によるカルテ記載の確認を行う。その結果を医療安全管理室連絡会議で報告の上，検証を行い，医療安全管理委員会で検証結果を報告の上，重大事例や早急に改善が必要となる事例においては，当該事例について，特別症例検討委員会で検討を行い，改善策を立案する。

⑩ 他の特定機能病院等の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況

- ・他の特定機能病院等への立入り（（病院名：東京医科大学病院・がん研究会有明病院）・無）
- ・他の特定機能病院等からの立入り受入れ（（病院名：東京医科大学病院・がん研究会有明病院）・無）

・技術的助言の実施状況

有害事象について，国立大学附属病院医療安全管理協議会の影響度分類で主治医が「因果関係なし」と判断した場合は，報告漏れの懸念があり，報告基準を倫理指針と同様に定める必要があると考えるとの助言があった。

⑪ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況

・体制の確保状況

- ① 患者相談窓口の設置
- ② 相談により患者や家族が不利益を受けないような適正な配慮
 - ・相談患者等には不利益が無いことを十分に説明し，面談室で相談に応じることで相談時のプライバシーを確保している。
 - ・当該患者の訴えを丁寧に聴取し解決策をプランニングする。

⑫ 職員研修の実施状況

・研修の実施状況

第1回：令和4年6月9日～令和4年7月31日（e-ラーニング研修）

- ① 日本大学医学部附属板橋病院の理念・基本方針
- ② 2021年度インシデントレポート報告と現状からの注意喚起
- ③ RRSって何？
- ④ CVCのフィルター等の運用について
- ⑤ 個人情報保護と守秘義務について

第2回：令和4年11月10日～令和4年12月31日（e-ラーニング研修）

- ① 患者の権利
- ② インフォームドコンセントを行う上での注意点
- ③ 当院における死亡診断時の段階的検証
- ④ 当院における転倒・転落対策について
- ⑤ RRSの要請記録について
- ⑥ 高濃度注射用カリウム製剤の運用について
- ⑦ MRI検査室における着脱可能な医療機器に対する注意のお願い
- ⑧ 当院における虐待対応のルールと事例について

（注）前年度の実績を記載すること（⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること）

⑬ 管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況

・研修の実施状況

管理者 (病院長)	開催日：令和5年1月26日 研修名：2022年度特定機能病院管理者研修（継続）
医療安全管理責任者 (副病院長)	開催日：令和5年1月16日 研修名：2022年度特定機能病院管理者研修（継続）
医薬品安全管理責任者 (薬剤部技術長)	開催日：令和5年1月16日 研修名：特定機能病院管理者研修（継続）
医療機器安全管理責任者 (臨床工学技士室技術長補佐)	開催日：令和5年2月20日 研修名：2022年度特定機能病院管理者研修（継続）

(注) 前年度の実績を記載すること

⑭ 医療機関内における事故の発生の防止に係る第三者による評価の受審状況、当該評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況、当該評価を踏まえ講じた措置の状況

・第三者による評価の受審状況

公益財団法人日本医療機能評価機構が実施する「一般病院3」の認定を受けている。
(認定期間：2022年10月13日～2024年1月31日 条件付認定(6か月))

・評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況

「一般病院3」認定証を院内に掲示しており、審査結果報告書は管理事務室内に備え置き、一般の供覧を可能としている。

・評価を踏まえ講じた措置

(注) 記載時点の状況を記載すること

規則第7条の2の2第1項各号に掲げる管理者の資質及び能力に関する基準

管理者に必要な資質及び能力に関する基準
<ul style="list-style-type: none"> ・ 基準の主な内容 <ol style="list-style-type: none"> ① 日本国の医師免許を有していること ② 心身ともに健康であること ③ 豊富な診療経験を有していること ④ 医療の安全の確保のため、医療安全業務の経験や患者安全を第一に考える姿勢及び指導力を有していること ⑤ 適正な管理運営を図るため、組織管理経験やガバナンスに必要な資質及び指導力を有していること ・ 基準に係る内部規程の公表の有無 (☒ ・ 無) ・ 公表の方法 日本大学医学部附属板橋病院のホームページ上に公表している。

規則第7条の3第1項各号に掲げる管理者の選任を行う委員会の設置及び運営状況

前年度における管理者の選考の実施の有無	☒ ・ 無			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 選考を実施した場合、委員会の設置の有無 (☒ ・ 無) ・ 選考を実施した場合、委員名簿、委員の経歴及び選定理由の公表の有無 (☒ ・ 無) ・ 選考を実施した場合、管理者の選考結果、選考過程及び選考理由の公表の有無 (☒ ・ 無) ・ 公表の方法 日本大学医学部附属板橋病院ホームページ上に公表している。 				
管理者の選任を行う委員会の委員名簿及び選定理由				
氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	特別の関係
村井 一吉	常務理事	○	内規第3条第1号により常務理事(人事担当)として選任	☒ ・ 無
武井 正美	副学長		内規第3条第7号により副学長(元医学部教授)として選任	☒ ・ 無
飯塚和一郎	人事部長兼人事部長職務代行		内規第3条第5号により人事部長(採用に係る責任者)として選任	☒ ・ 無
木下 浩作	医学部長		内規第3条第2号により医学部長として選任	☒ ・ 無

柳島 力	医学部事務局長		内規第3条第3号により医学部事務局長として選任	☒ ・無
安中 太	板橋病院事務長		内規第3条第4号により医学部附属板橋病院事務長として選任	☒ ・無
渡邊俊太郎	翼法律事務所		内規第3条第6号により医療安全管理及び法律に関する識見を有している外部委員として選任	有・ ☒ 無
小川 良雄	昭和大学		内規第3条第6号により病院管理経験を有している外部委員として選任	有・ ☒ 無
富澤かづ江	板橋病院看護師長		内規第3条第7条により現場で働く医療者の代表及び女性の視点を反映させるため選任	☒ ・無

規則第9条の2 3第1項及び第2項に掲げる病院の管理及び運営を行うための合議体の設置及び運営状況

合議体の設置の有無	☒ ・無
<p>・合議体の主要な審議内容</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 病院の教育・研究・診療に関する事項 ② 病院の管理・運営に関する事項 ③ 病院の経営に関する事項 ④ 部長会の審議事項に関する事項 ⑤ その他病院に必要な事項 <p>・審議の概要の従業者への周知状況 諸会議，委員会を通じて周知している。</p> <p>・合議体に係る内部規程の公表の有無（有・☒無）</p> <p>・公表の方法</p> <p>・外部有識者からの意見聴取の有無（有・☒無）</p>	

合議体の委員名簿

氏名	委員長 (○を付す)	職種	役職
【執行部会議】			
高橋 悟	○	医師	病院長
高山 忠輝		医師	副病院長
中山 智祥		医師	副病院長
山上 聡		医師	副病院長

縣 美恵子		看護師	副病院長・看護部長
安中 太		事務	事務長
川名 敬		医師	病院長補佐
中嶋 秀人		医師	病院長補佐
森岡 一朗		医師	病院長補佐
櫻井 裕幸		医師	病院長補佐
北野 尚孝		歯科医師	歯科口腔外科部長
大塚 進		薬剤師	薬剤部長
武内 典久		事務	医学部経理長

規則第15条の4第1項第1号に掲げる管理者が有する権限に関する状況

管理者が有する病院の管理及び運営に必要な権限

- ・ 管理者が有する権限に係る内部規程の公表の有無（ ・ 無 ）
- ・ 公表の方法
日本大学医学部附属板橋病院のホームページ上に公表している。
- ・ 規程の主な内容
本学の教育・研究及び診療・管理に関する事項を管掌する。

- ・ 管理者をサポートする体制（副院長、院長補佐、企画スタッフ等）及び当該職員の役割
- ・ 副院長は運営上の重要分野である診療・耐震化，医療安全・感染症対策，経営・人事，多職種連携・教育研修の各分野をサポートする。
- ・ 院長補佐は喫緊の重要施策である病院機能改善・保険診療，働き方改革・タスクシェア，手術室運営・がん診療，コンプライアンス・職場環境の各施策をサポートする。
- ・ 事務長，看護部長，薬剤部長，医学部経理長は事業計画の立案や計画，予算の編成について，各専門分野の見地から具体的施策の具申を行う。

- ・ 病院のマネジメントを担う人員についての人事・研修の状況
副院長に医療管理・経営に精通した経営学修士（MBA），医療経営士3級（日本医療実践協会）取得者を配置している。役職者ごとに所属団体である全国医学部長病院長会議，私立医科大学協会病院事務長会議総会，同東ブロック会，病院部会医療安全・感染委員会等に参加して研鑽を積んでいる。
また，特定機能病院管理者研修，医師の働き方改革セミナー，医師と法曹界の相互理解のためのシンポジウム，医療法務セミナー等に参加して病院経営の適正化に努めている。

規則第15条の4第1項第2号に掲げる医療の安全の確保に関する監査委員会に関する状況

監査委員会の設置状況	☒ 有・無
<p>・ 監査委員会の開催状況：年 2 回</p> <p>・ 活動の主な内容：</p> <p>学校法人日本大学におけるガバナンス強化を目的に板橋病院における医療安全管理体制及び業務遂行に関する監査を目的として「日本大学医学部附属板橋病院医療安全監査委員会内規」に基づく医療安全監査委員会を設置する。当該委員会は板橋病院の医療安全管理，感染防止，医薬品安全管理，医療機器安全管理等に係る体制整備及び業務遂行状況を監査し，監査結果は開設者に報告し，ホームページを通じて外部に公表する。</p> <p>・ 監査委員会の業務実施結果の公表の有無（ ☒有・無 ）</p> <p>・ 委員名簿の公表の有無（ ☒有・無 ）</p> <p>・ 委員の選定理由の公表の有無（ ☒有・無 ）</p> <p>・ 監査委員会に係る内部規程の公表の有無（ ☒有・無 ）</p> <p>・ 公表の方法：</p> <p>日本大学医学部附属板橋病院ホームページ上に公表している。</p>	

監査委員会の委員名簿及び選定理由（注）

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
寺崎 仁	元東京女子医科大学医療安全科教授・医師	○	大学教授として医療安全に関する豊富な実践経験と識見を持ち合わせているため	有・ ☒ 無	1
各務 武希	光和総合法律事務所・弁護士		法曹界での豊富な実践を有しており，法律に関する専門知識とコンプライアンス	有・ ☒ 無	1

			分野の識見を持ち合わせているため		
佐伯 晴子	一般社団法人 マイインフォ ームド・コンセ ント理事長		医療を受ける者の視点から医学教育や患者に寄り添う医療づくりに関する豊富な活動実績を有しているため	有・ ☐ 無	2
西成田 進	元板橋病院医療安全管理室 兼任医師		総合病院病院長と本病院医療安全管理室での業務経験を持ち合わせているため	☐ 有・無	3
庄司 義男	元関東信越厚生局医療課長		豊富な業務経験を踏まえた医療に係る安全管理に関する識見を持ち合わせているため	☐ 有・無	3

(注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1~3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1.に掲げる者を除く。）
3. その他

規則第15条の4第1項第3号イに掲げる管理者の業務の執行が法令に適合することを確保するための体制の整備に係る措置

管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況

- ・体制の整備状況及び活動内容
学校法人日本大学寄付行為に基づく監事監査及び公認会計士又は監査法人による財務監査を実施している。また、日本大学内部監査規程に基づく監事監査及び財務監査から独立した内部監査を行う体制を整備している。
法人組織において、監査を所管する事務組織を大幅に刷新し、監事監査及び内部監査の充実並びに法人のコンプライアンス（法令遵守）を図る目的で、令和4年6月1日付けで、それぞれ、監事監査事務局とコンプライアンス事務局を設置した。
- ・ 専門部署の設置の有無（ ・ 無 ）
- ・ 内部規程の整備の有無（ ・ 無 ）
- ・ 内部規程の公表の有無（ ・ 無 ）
- ・ 公表の方法
日本大学医学部附属板橋病院のホームページ上に公表している。

規則第15条の4第1項第3号口に掲げる開設者による業務の監督に係る体制の整備に係る措置

開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の状況			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 病院の管理運営状況を監督する会議体の体制及び運営状況 学校法人日本大学に病院の健全な経営を図るため、日本大学病院経営会議を設置し、病院経営に関する重要な事項や病院の組織及び人事に関する重要な事項、その他病院に関する重要な事項を審議し、病院の業務を監督する。 ・ 会議体の実施状況（年 9 回） ・ 会議体への管理者の参画の有無および回数（☒有・無）（年 5 回） ・ 会議体に係る内部規程の公表の有無（☒有・無） ・ 公表の方法 日本大学医学部附属板橋病院ホームページ上に公表している。 			
病院の管理運営状況を監督する会議体の名称：日本大学病院経営会議			
会議体の委員名簿			
氏名	所属	委員長 (○を付す)	利害関係
林 真理子	理事長	○	有・無
酒井 建夫	学 長		有・無
武井 正美	副学長		有・無
村井 一吉	常務理事		有・無
和田 秀樹	常務理事		有・無
浅井 万富	常務理事		有・無
大熊 智之	総務部長		有・無
友近 英展	財務部長		有・無
飯塚和一郎	人事部長		有・無
正田 純一	管財部長		有・無
木下 浩作	医学部長		☒ 有・無
本田 和也	歯学部長		有・無
福本 雅彦	松戸歯学部部長		有・無
石崎 和文	医学部事務局長		☒ 有・無
松本 直也	日本大学病院病院長		有・無
桜庭 政彦	日本大学病院事務長		有・無
高橋 悟	板橋病院病院長		☒ 有・無
安中 太	板橋病院事務長		☒ 有・無
小林 清	常任監事		有・無
金 佳亜紀	病院経営指導管理オフィス特任次長		☒ 有・無

(注) 会議体の名称及び委員名簿は理事会等とは別に会議体を設置した場合に記載すること。

規則第15条の4第1項第4号に掲げる医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付ける窓口の状況

窓口の状況
<ul style="list-style-type: none">・ 情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無 (☒ 有 ・ 無)・ 通報件数 (年 0 件)・ 窓口に提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための方策その他窓口の設置に関する必要な定めの有無 (☒ 有 ・ 無)・ 窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無 (☒ 有 ・ 無)・ 周知の方法 電子カルテ, 医療安全講習会, 医療安全ポケットマニュアル, リーフレット, ホームページ等で周知している。

(様式第 7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類 (任意)

1 果たしている役割に関する情報発信

① 果たしている役割に関する情報発信の有無	有
<p>・ 情報発信の方法、内容等の概要</p> <p>医療連携施設として登録している医療機関・施設及び近隣医療機関へ当病院の取り組みや各診療科における最新医療情報・特徴・特色・診療実績等を掲載したメールで情報発信を毎月行っている。</p> <p>なお、ホームページにおいても情報発信を行っている。</p> <p>また、連携施設として登録している医療機関・施設及び近隣医療機関向けの連携セミナーや意見交換会、地域住民向けのセミナーを定期的に開催して、当病院からの情報発信を定期的に行っている。</p> <p>年 1 回、連携施設の方をお招きして医療連携講演会及び懇親会を開催し、当病院の取り組みや各診療科における最新医療情報・特徴・特色・診療実績などを講演し、懇親会では緊密な情報交換を行っている。</p>	

2 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	有
<p>・ 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要</p> <p>外来・入院問わず、疾患に応じて主科から他科へのコンサルテーションを行い、兼科によって複数の診療科が連携して治療対応に当たる体制を構築している。</p> <p>また、疾患によっては複数診療科でのカンファレンス等により、患者にとって最良な治療方針を検討している。</p>	